

“大阪医科大学関係者の皆様”へ
FELICE で
理想の結婚

フェリーチェは、メディカル人材企業との提携を通じて、医療の第一線でご活躍の医師・歯科医師を中心にお迎えし、理想の結婚をプロデュースすることを目的として創設された会員制クラブです。

万全の個人情報管理と医療業界を熟知した専任コーディネーターだからできる「洗練された出逢い」をあなたに。

<成婚事例>

男 性	女 性
33歳 大阪医科大学	医師 ♪ 27歳 神戸薬科大学
31歳 大阪市立大学	医師 ♪ 28歳 京都府立医科大学
34歳 慶應義塾大学	医師 ♪ 26歳 神戸女学院大学
36歳 神戸大学	医師 ♪ 33歳 関西医科大学
38歳 京都府立医科大学	医師 ♪ 29歳 近畿大学
37歳 愛知医科大学	医師 ♪ 31歳 同志社大学
41歳 関西医科大学	医師 ♪ 33歳 京都女子短期大学
38歳 大阪大学	医師 ♪ 32歳 兵庫医科大学
37歳 近畿大学	医師 ♪ 29歳 大阪医科大学

大阪医科大学関係者様 限定キャンペーン

詳しくはお問合せください。



詳しくはフリーダイヤル、またはホームページにて、フェリーチェのすべてがわかる資料をご請求ください。

0120-683-156 www.felice.cc

受付時間／10:00~20:00 水曜定休日

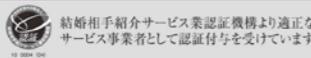
フェリーチェはおかげさまで創立14周年を迎えた。そして、約4000社ある事業者の中で「紹介内容の的確さ」「スタッフのサポート体制」など11項目からなる「顧客満足度の高い会社」2年連続 総合1位（オリコン株式会社調べ）との評価をいただきました。

今後とも「真の顧客サービス」を目指し、皆さまのご結婚を全力でサポートさせていただきます。

無料 親御様向け説明会のご案内

毎月 1500 件以上のお見合いをコーディネートしているプロフェッショナルがどんなご相談にもお応えします。

プライムマリッジ株式会社
www.prime-marriage.com



個人情報管理・プライバシー保護には細心の注意を払っています。
日本結婚相手紹介サービス協議会

銀座ラウンジ 東京都中央区銀座6-4-1 東海堂銀座ビル4F
芦屋ラウンジ 兵庫県芦屋市業平町6-16 芦屋ファルファーラ4F

横浜ラウンジ 横浜市西区みなみみらい2-3-1 グーンズタワーA4F
梅田ラウンジ 大阪府大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第四ビル10F

大阪医科大学 仁泉会ニュース

仁泉会ニュース 第 48 卷 第 1 号
発行所 〒569-8686 高槻市大学町 2-7
電話 FAX 072-682-6166 072-682-6636
発行者 発行部数 河野 公一 6,100 部
URL <http://www.jinsenkai.net>

二〇一七

謹賀新年



P3

新年のご挨拶

大阪医科大学仁泉会理事長 河野公一
 学校法人 大阪医科薬科大学理事長 植木 實
 大阪医科大学学長 大槻勝紀
 東日本支部長 酒谷 薫／静岡県支部長 吹田浩之／愛知県支部長 石垣 宏
 大阪府支部連合会会长 佐藤公彦／西区支部長 浅野彰彦／北区大淀支部長 山田勝彦
 生野区支部長 村田高穂／阿倍野区支部長 福本敏子／豊中市支部長 渡邊一三
 枚方交野市支部長 森川浩志／東大阪市支部長 大西洋一郎／堺市支部長 村木宏要
 岸和田市支部長 大植 瞳／兵庫県支部連合会会长 日下孝明／神戸支部長 増井裕嗣
 西宮支部長 原 均／宝塚支部長 辰井 光／川西支部長 土肥恒夫
 岡山県支部長 小出尚志／香川県支部長 石田達也／愛媛県支部長 井関亮甫
 福岡県支部長 有吉孝雄／評議員 出村 横

P22 第 30 回大阪医大女医会 各科医療勉強会のご案内

P25 平成 29 年度仁泉会学術集会助成申請について

P26 祝・札幌医科大学教授ご就任！

役員交代

P27 受章・表彰報告

受賞報告

P28 新専門医制度に対する大阪医大の取り組み

P30 第 48 回日本医学教育学会大会の報告

P33 平成 28 年度大阪府連学術講演会のご報告

P35 平成 28 年度仁泉会住吉・住之江支部総会

および懇親会の報告

P36 仁泉会阿倍野支部総会と懇親会の報告

P38 仁泉会河内長野支部交流会開催

P39 平成 28 年度学 6 期親西会総会

P40 八起会（学部八期、昭和 34 年卒）開催

P41 TOPICS

P42 三三会（学 11 期 S33 年学部入学）

P43 平成 28 年度 46 会報告

P44 茂松茂人先生大阪府医師会会长就任祝賀会及び

学 27 期生第 10 回同窓会

P46 大阪医科大学学 29 期生同窓会報告

P47 大阪医大と島根医大での思い出 今昔物語

P52 野見神社と高槻の歴史を感じる散策へ

P56 新聞切抜 寺井 晋先生（学 7 期）

P57 会員著書 藤田きみゑ先生（学 20 期）

P58 会員著書 板野 聰先生（学 28 期）

P59 新聞切抜 吉本明弘先生（学 44 期）

P60 エッセイ「歴史を彩った女性達（3）」

P61 まんが「パラパラ漫画」

P62 リレーエッセイ

P63 編集後記

新年のご挨拶

大阪医科大学仁泉会 理事長 河野公一（学 21 期）

新年明けましておめでとうございます。
 会員諸先生には、ご家族の皆様共々ご健勝にて
 穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げ
 ます。

平素より仁泉会の活動につきまして、種々ご
 助力ご助言を賜り厚く御礼申し上げます。

仁泉会は一般社団法人大阪医科大学仁泉会と
 して新定款の下、3 年前より新たな歩みを始め、
 その公益目的である、学術振興および研究助成
 事業、良医育成のための医学部学生に対する奨
 学金貸与事業、また一般事業である、会員諸先
 生の福利厚生への支援や母校の発展向上に寄与
 する各種事業など、会員諸兄のご助力のもと推
 進してまいりました。

新定款発足後、本部理事会一期目（2 年）の
 方略として、内田實（学 12 期）、安藤嗣彦（学
 20 期）両副理事長を中心として新役員の会務
 分掌を明確にし、総会でお認めいただきました
 これら事業計画を円滑に進めるべく組織強化に
 努めてまいりました。

昨年 6 月には、両副理事長をはじめ本部理事
 の先生方にはご無理を申して、これら事業をさ
 らに進めるべく 2 期目のご留任をお願いしたと
 ころです。

そのような中、全国で活躍されている各地区
 の会員諸先生のより活発な交流と、今後の活動
 に関するご意見をお聞かせ願うことを目的とし
 て、一昨年 3 月 8 日に関東地区合同の仁泉会総
 会を東京で、また一昨年 3 月 2 日（土曜日）には、
 同様の趣旨で四国地区総会を高松で、3 月 29 日
 （日曜日）には岐阜、愛知、三重県を中心に長
 野県、静岡県の先生方の参加も得て名古屋で仁
 泉会総会（新三水会）を開催させていただきました。

この他多くの県で地区総会が開催されました
 が、これらの会を通じて会員諸兄のご活躍をつ
 ぶさに感じることが出来、また今後の持続的な
 会の開催を希望される声が多く、今後の活動に
 対して数々の貴重なご意見を直に賜りましたこ
 とは、大変有意義であったと思っております。
 これら会の開催にご尽力いただいた各地区役員
 の先生方にあらためて厚く御礼申し上げます。

一方、一昨年 8 月 23 日には、本学が国際交
 流協定を結んでおります台湾の私立台北医科大
 学同窓会と交流協定を締結いたしましたが、そ
 の成果は、本学法人の下にある高槻高校の昨年
 の台湾研修時に同大学同窓会長李先生のお世話
 により、台北医学大学附属病院研修や交流会の
 開催等に結びつきました。

さて近畿地区では久しく会が開催されていな
 かった滋賀県仁泉会総会を昨年 2 月 13 日に開催
 いたしました。また 3 月 19 日には九州各県の先
 生方に福岡にお集まりいただき合同の総会を、
 さらに 11 月 20 日には金沢で、福井、石川、富山、
 新潟の先生方による北陸地区合同の総会を開催
 させていただきました。

今後は同様に数県にまたがる地区総会を開催
 していただき、各支部の更なる活性化、会員相
 互の親睦と情報共有をお願いして参る所存で
 す。各期クラス会や支部会開催の節には本部事
 務局にまでご一報いただければ幸いです。

現在本部理事会では大阪医科大学の新法人化に
 伴う仁泉会選出役員の 7 名から 5 名への変更に伴
 う選考規定の改定、本学医学部学生の仁泉会への
 入会、理事長をはじめとする本部役員の任期制の
 検討、新法人の下に加わりました大阪薬科大学同
 窓会との交流など山積します課題に対応してま
 いる所存ですが、これらについては次回の総会など
 の場で逐次ご報告してまいります。

今年も引き続き会員各位のご支援、ご助力を
 お願い申し上げますとともに、会員並びにご家
 族の皆様が今年一年ご健勝でご活躍されること
 を心より祈念申し上げます。

新年のごあいさつ 慶事・創立 90 周年

—教育のさらなる高質化と永続に向けて—

学校法人大阪医科大学 理事長 植木 實

明けましてお目出度うございます。

仁泉会の皆様におかれましては、良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

扱、世界情勢を客観的に見ますと、中東の根深い IS を核とする戦争は止まず、アフリカをはじめ世界各地ではテロが勃発し、クリミヤ半島を併合したロシアへの制裁の継続やイギリスの EU 離脱、中国の南シナ海での海洋侵出（軍事基地化）、アメリカの次期大統領としてトランプ氏の選出、韓国における朴大統領退陣への大きなデモ活動、北朝鮮の核開発による脅しなど、世界は自国の軍事力強化と保守主義に走る傾向にあります。これに伴い、世界経済も中国を中心に新興国が減速し、極めて不安定な状態にあります。

本邦は、政治面では自民党による独裁政権となり、多少無理な運営も見受けられますが、総じて大きな混乱はなく、経済面ではそれらを反映しつつ、トランプ氏勝利の効果と国内消費低迷の影響などの微妙なバランスの上に成り立っております。また、我々医療系機関に大きな影響を与える医療保険制度の改正については、注視しつつ経営に適切に反映していかねばなりません。

ご承知のように、平成 28 年 4 月 1 日に大阪医科大学と大阪薬科大学は法人合併して学校法人大阪医科大学が誕生し、2 大学と高槻中学校・高等学校を擁する医療系総合大学・中等学園としての歩みを始めました。

本学法人は、寄附行為第 3 条に「この法人は、

教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、学校等を設置し、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、創造性と人間性豊かで人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。」と定め、両大学は人間性豊かな良質の医療人を、中学校・高等学校は次世代のリーダー・グローバル人材の育成を使命としています。

日本最初の 5 年制高等医学専門学校として昭和 2 年に設立された大阪医科大学は、今まで 90 年にわたり、創設時の建学の精神（上述）及び最近定めた学是『至誠仁術』に則って運営され、創学以来、9 千余人の優秀な医師を輩出しました。併せて、同様の歴史を持つ看護基礎教育により 4 千余人の看護師を世に送り出し、現在は看護学部及び同大学院から学士を持つ看護師、保健師及び助産師、学位（修士）を持つ看護師を養成しています。

今年、平成 29 年は、大阪医科大学創立 90 周年の節目を迎えますので、この秋に記念式典並びに記念講演会を開催して祝う予定です。ぜひ多くの皆様にご参加いただけますようお願い申し上げます。

また、明治 37 年創設の大薬科大学は、110 余年の歴史と伝統を持ち、病院、薬局、製薬メーカー、官公庁、教育機関など、幅広い分野で活躍する 2 万余人の薬剤師を世に送り出し、我が国の薬学教育の中心的役割を果たしています。今後、薬学は創薬等の分野での活動が期待されますが、薬剤師は医療分野で益々重要視され、医師、看護師、薬剤師によるチーム医療が病院や地域医療の中心になります。本学法人では、目標の 1 つとして新しいチーム医療体制の構築を目指してまいります。

一方、完全中高一貫の中等教育機関である高槻中学校・高等学校は、昭和 15 年の創立以来、1 万 4 千余人の優秀な人材を輩出してきました。本校は、その特色あるカリキュラム作りが認められ、文部科学省から平成 26 年に SSH（スー

パーサイエンスハイスクール）及び平成 28 年に SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受けると共に、英会話力の向上を目指す取り組みと併せて教学強化に力を注ぎ、新たな教育法の開発と実践を行っています。加えて、国が推進する男女共同参画社会の実現に寄与するべく来年度から男女共学化し、次世代を牽引するグローバル人材を育成してまいります。そのために、高槻中学校・高等学校は新校舎建築を含め全面的にキャンパス整備を進めており、新校舎はこの春に竣工致します。

学校法人は、その設置の使命として大きく公共性、自主性及び継続性の 3 つが挙げられます。特に法人の継続による安定した高質の教育は極めて重要であり、それも永続するものでなければなりません。この度の法人合併によって教育・研究・医療領域のさらなる進展が期待されると共に、経営基盤の安定と効率化がもたらされます。これらは、両大学及び中等学園がこれまでの実績を踏まえ、それぞれの自主性・特色を活かし、コラボレートすることで達成され、より一層の成長が図られると考えます。同時に、教職員及び学生・生徒諸氏に自己研鑽・自己啓発を促す SSD、即ち Staff (Student) Self-Development の実践を求めています。構成員一人ひとりの努力の積み重ねによる資質・能力の向上が、両大学・中等学園及び病院群を

骨太化すると信じています。

本学法人は、これから社会情勢の変化も見据えながら、医学・薬学・看護学が連携・融和する先進的医療体制の構築と学際的教育・研究及びチーム医療教育を推進し、一方では探究心を伴う高度な中等教育を行うなど魅力ある学校作りを行い、教育、研究並びに医療の Center of Community として、確固たるガバナンスのもと継続的・社会貢献 Sustainability を果たしつつ、本邦でも最優の特色ある医療系総合大学・中等学園への発展を目指して邁進してまいります。

今後共、多くの教職員や学生・生徒諸氏の支援をいただきながら、全役員とも一致協力し、両大学の融和を進め、次の目標である大学統合に向けて一層努力してまいりますので、ご指導、ご支援をお願い申し上げます。

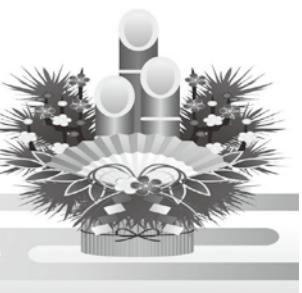
仁泉会会員の皆様の母校である大阪医科大学は、大学病院のメインタワーとなる病院新本館棟及び次世代がん治療施設「関西 BNCT 医療センター」の建築を進め、教育、研究の一層の向上に努めつつ、環境整備にも注力し、母校のさらなる飛躍につなげてまいります。

仁泉会の皆様の新年における益々のご健康とご活躍を祈念申し上げまして、年頭のご挨拶と致します。

謹賀新年 2017

新年明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
仁泉会会員様のご健勝とご多幸を祈念しております。

仁泉会役員一同

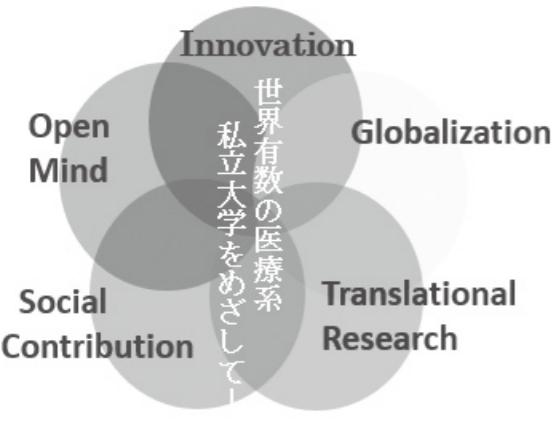


2017 年新年のご挨拶

大阪医科大学 学長 大槻勝紀（学27期）

仁泉会の皆様、あけましておめでとうございます。学長としてあつという間の一年半が過ぎました。これまで堺、泉南、京都、枚方、高槻、阿倍野、東北支部など多くの仁泉会の皆様方とお会いして温かいご声援をいただきました。これまでの学長としての方針と成果や大学の近況報告をさせていただくとともに、大学に対する熱い思いやご意見をいただき紙面をお借りし御礼申し上げます。昨年の仁泉会ニュースに 5 つの教学改革方針をあげさせていただきました。

1. Innovation, 2. Translational Research, 3. Social Contribution, 4. Globalization, 5. Open Mind



Innovation では学長の下に教職員からなる教育戦略会議と研究戦略会議を設け、教学改革方針に基づき、PDCA サイクル (Plan, Do, Check, Action) を実施しています。これまで教育研究集会を昨年の 1 月、6 月、今年の 1 月に開催し、教学改革方針と成果について情報を発信し共有してきました。教育改革については昨年 7 月に本学で第 48 回日本医学教育学会を開催し、名誉会長日野原重明先生をはじめ世界から著名な医学教育者や学会員が参加されました。学会参加人数や演題数ともに過去最高を記



第 48 回日本医学教育学会終了後の本学関係者一同

録し、盛会裏に終えることができました。学会を開催するにあたり仁泉会からご支援をいただき御礼申し上げます。本年から新カリキュラムが始まります。新しい企画として医学教育分野別認証評価に対応した臨床実習期間の大幅な延長 (46 週から約 70 週へ)、学生研究の確保、トライアルとして共通卒業試験 (関西公立私立 8 医科大学共通) の実施、進級判定改革 (医学・看護学部で GPA の採用) や国試対策 (医学・看護学部) などが盛り込まれています。詳細につきましては随時、大阪医科大学学長室 HP の「学長の Open Mind」でご説明させていただきます。

Translational Research では H28 年度科研費採択件数、獲得額は過去最高で新規採択総額は約 1.5 倍に増加しました。また AMED と呼ばれる産学連携事業では過去 4 年間で医学・看護学部を合わせて約 5 億 5 千万円獲得することができました。現在、学術プランディング事業など公的外部資金の獲得に向け努力しています。昨年 8 月には AMED の末松 誠理事長、本年 1 月には京都大学 iPS 細胞研究所所長・山中伸弥先生の講演を企画し、学生や研究者や職員に貴重なお話をいただきました。昨年、本学を代表する研究を特化し財政的に援助することを目的として研究拠点の募集を行いました。昨年は 25 件の応募があり、審査の結果、8 つの拠点を決めました。今年は実績により研究拠点の入れ替え戦を行い、数年先に 2-3 の研究拠点に絞り、センター化していきたいと考えています。

■医工連携事業化推進事業での実績

番号	年度	省庁	事業名	課題名	部署 (採択時)	役職 (採択時)	氏名	金額(千円)	備考
1	H24年度～H26年度	経産省	課題解決型医療機器開発事業	次世代を担う単孔式腹腔鏡手術で用いる新規ポートの開発	一般・消化器外科学教室	助教※1	あさひ 朝隈 光弘	90,950	※1現在は講師(准)
2	H25年度～H27年度	経産省 (AMED)	総合特区推進調整費用 (医工連携事業化推進事業)	眼で診る聴診器～携帯型超音波画像診断装置の開発	看護学部 ※2	准教授	まつお 松尾 淳子	120,376	※2現在は福井大学教授
3	H26年度～H28年度	経産省 (AMED)	医工連携事業化推進事業	自己組織に置換され、伸長する心臓修復パッチの開発	胸部外科学教室	専門教授	ねじと 木原 大輔	164,593	※3 本年度の予定額を ※3 含む
4	H28年度～H30年度	経産省 (AMED)	医工連携事業化推進事業	DDS機能を有する自己組織置換型 半月板の開發・実用化	整形外科学教室	助教	おおつか 大槻 周平	177,689	※4 申請金額
5	H28年度～H30年度	経産省 (AMED)	医工連携事業化推進事業	失明回避に貢献するポータブル視 野計(POLS)の開発・事業化	眼科学教室	講師	よしみず 木村 麻里	233,618	※5 企業と関西大学が 開発の中心(本学の研究 費は3,700千円を予定)

1～4：本学が主体の事業 (553,608 千円)

昨年、日本で G7 が開催されましたが、その後、7 か国の保健大臣が神戸に集まり、WHO を介して高齢化社会が直面する課題の共同研究を日本の大学と行うことが決まりました。本学からは 4 つテーマのうち、「食育とオーラルケア」の担当主幹大学 (本学口腔外科学教室、公衆衛生学教室や看護学部) となり、関西公立私立大学医学部と共同研究することが決りました。



関西公立私立大学医学部 学長と WHO との調印式

Social Contribution では平成 26 年から兵庫県で始まった兵庫県医師派遣事業を平成 27 年から高知県でも行い、両県から高い評価を受けるとともに、派遣医師から地域医療で経験をした貴重な体験が報告されました。高知県尾崎正直県知事にお願いし、昨年 8 月の夏休みを利用して高知県で本学医学・看護学部と大阪薬科大学薬学部学生による多職種連携地域医療実習を行いました。医学・看護学・薬学部の学生諸君は、地域医療が抱える問題を異なった視点から討論し多職種連携の重要性を認識しました。今後も多職種連携教育を充実させたいと考えています。国家試験の合格率は H28 年度、新卒者 約

96% で、新卒者、既卒者および全体でも久しぶりに国公私立大学の全国平均を上回ることができました。看護学部につきましても看護師、保健師、助産師の高い合格率を毎年維持しています。今後とも社会に貢献できる医療人の育成に努めていきたいと考えています。



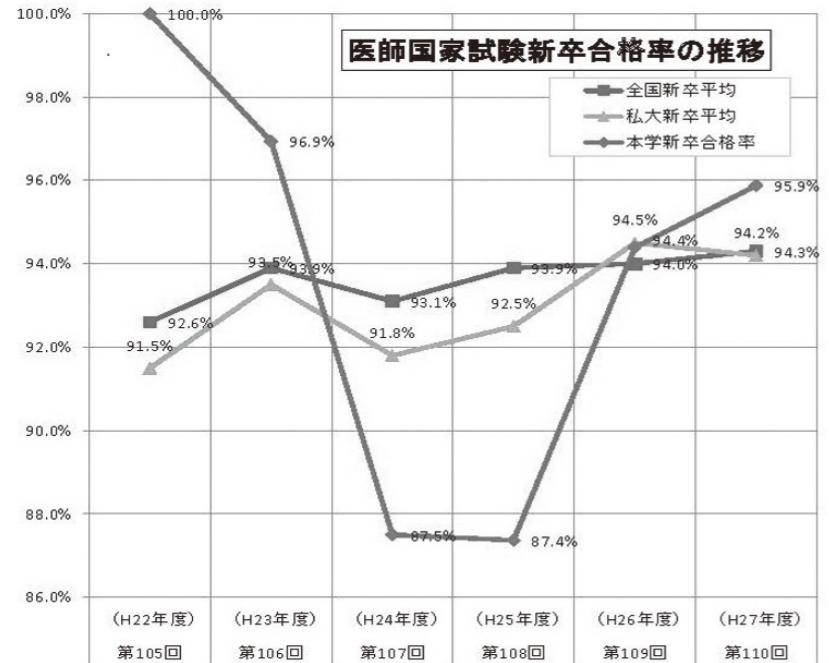
高知県での多職種連携医療実習

Globalization では中山国際医学医療交流センターの強化を目的として、平成 28 年に専任講師を配置し、医学・看護学部学生の国際交流が盛んになることを期待しています。現在、ハワイ大学、アムール医科大学、タイ・マヒドン大学や韓国ソウル大学など有名な 10 大学と交流協定を結び、毎年 30 名前後の学生が短期留学しています。昨年はベトナム国家大学ハノイ校が交流校として加わりました。

Open Mind として情報の収集、分析や提供を目的として Institutional Research(IR : 教育研究情報室) を設置し、重要かつ緊急度の高い情報を教職員に提供していきたいと思います。昨年の学長のスローガンは「教職協働」で

した。まだ改革半ばですが今年度も同じスローガンを掲げ、理事長とともに大阪医科大学のブランド力向上を目指す所存でございます。

最後になりましたが、仁泉会のご発展とともに、今年度も変わらずご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



東日本支部の新たな船出

東日本支部長 酒谷 薫（学30期）

東日本支部より仁泉会会員の先生方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

東日本支部は、仁泉会の新たな支部として昨年発足した、生まれて間もない支部である。以前活動していた東京支部を中心に、甲信越地方、東北地方、そして北海道も含めて東日本支部として新たな船出をした。仁泉会会員は京阪神を中心とした関西地区に多いが、会員名簿に目を通すと大都市から遠く離れた地方にも仁泉会会員は散見される。事務局によると東北や北海道では会員数が特に少なく、独立した支部を作ることは難しいとのことであった。そこで東日本支部として、関東以北の地方でご活躍の先生方にも仁泉会の行事に参加して頂けるようにしたのである。

今年度の目標は、まず新年会を開催することである。都立駒込病院外科部長の岩崎善毅先生（学35期）と相談し、2月25日に東京駅近くの中華料理店で開催することにした。岩崎先生は、旧東京支部でもまとめ役の幹事として活躍されており、東日本支部でも引き続き幹事をお願いしている。岩崎先生とは何度か東京で一杯飲みながら打ち合わせをしたが、大阪から遠く離れて仕事をしていると同窓生と会える機会は限られており、こうして気の置けない同窓生同志で呑めることをお互いに感謝した。

仁泉会事務局にこの新年会の企画を伝えたところ、仁泉会から理事長の河野公一先生、副理事長の内田 實先生、安藤嗣彦先生に加えて大槻勝紀学長も参加して頂けることになった。こ

んなにも来ていただけるとは望外の喜びである。当初は東日本支部の幹事が集まる小ぢんまりとした新年会を予定していたが、東日本支部の会員全員にお声がけするよう様にした次第である。

もう一つの目標は、地方在住の先生方との絆を深める親睦旅行を開催することである。東日本地方には風光明媚なところが少なくない。例えば、東北地方には素晴らしいゴルフ場や温泉が点在している。また、東北新幹線を使えば、東京から仙台ならば1時間半、盛岡ならば2時間余りで行けるので、週末の小旅行にはもってこいである。

実は、大阪からも東北地方は意外と近く、飛行機を使えば、伊丹空港から福島空港や仙台空港へは1時間余りで到着できる。東日本支部の設立をきっかけに、関西の仁泉会会員にも東北地方まで足を延ばしていただければ幸いである。

2017年の初夢は、仁泉会の先生方と東北のひなびた温泉旅館で一献傾けていることかもしれない。

新春のご挨拶

静岡県支部長 吹田浩之（学36期）

新年、あけましておめでとうございます。昨年の熊本地震で被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

今年は地震の話をさせていただきます。私が住む静岡市は、40年も前から東海大地震が今日来るぞ、明日来るぞと脅されてきました。昔話になりますが私が高校生の時「今日、東海大地震が来る」とデマが流れ、午後から休校になりました。そのおかげと言ってもよいか、当時より静岡市全体が熱心に地震対策に取り組んでいます。

私は静岡市静岡医師会の理事を8年務めております。4年前より災害対策委員長を仰せつけており、さらに良いものを求めて奮闘しています。

静岡市の災害対策の特徴は1) 発災後速やかに小学校单位で救護所を立ち上げます。災害トランクに医療備蓄品を用意し、救護所に保存しております。2) 救護所の班長は4級無線の免許を取得し、全員にデジタルアマチュア無線機のD-STARを貸与しています。これにより救護所と医師会本部との連絡を行います。3) 会員全員にオレンジ色の災害用ギブスを貸与しました。会員のモチベーションを上げて、住民の皆様には医師であることが一目でわかるようになりました。4) 行政にお願いしてドラックストアと提携を結んでもらいました。救護所とドラックストアが連携できるようにする試みです。現在、関係者同士で連携の方法を話し合っています。5) 災害時の電力としてプロパンガスによる発電機を設置しました。バッテリー用にリーフの購入も決めました。次の目標は屋上にソーラーパネルを設置する事です。

災害対策とは予測による訓練はできても、実



地トレーニングはできません。考えても、考えても完成はないように思います。いろいろな地域の先生とアイデアを出し合うことが必要と考えています。仁泉会の先生で地域の災害に関わっている先生がおられましたら、ぜひ交流をさせてください。

なお、静岡医師会は移動理事会（親睦旅行）で各地の医師会の理事の先生との親睦会を希望しております。もし可能な先生がおられましたら、ご連絡をお待ちしています。

新春のご挨拶

愛知県支部長 石垣 宏（学16期）

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。本年も会員の皆様方により増して実り多い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

平成 25 年度より愛知県支部長を命ぜられた学 16 期の石垣です。

私の学生時代に当時産婦人科教室の教授であられた小島 秋先生が会長で三水会という会があったと記憶しています。

その三水会を新たに立ち上げようと前愛知県支部長の学 14 期の神谷鉄彦先生が中心となって、岐阜、三重の先生方との話し合いがもたれ、平成 26 年 3 月、神谷鉄彦先生のお力ぞいにより、愛知、岐阜、三重、長野の四県で新三水会が発足しました。

今後 2 年に一度開催することが決まり、28 年度はもち廻りで岐阜県支部の当番で岐阜で開催される予定です。四県の仁泉会会員の皆様にはぜひ出席され、会をもり上げたいと考えていますので、ぜひ出席されることを願います。

愛知県支部の喫緊の課題といたしまして、支部総会の出席者の顔ぶれが固定化し、出席率が低下していることあります。会員の高齢化に

加え、新卒の先生方の勤務先、連絡先が掌握されていないのが現状です。早急に若い先生方の連絡先を把握し、ぜひ若い先生方にも出席しがいのある魅力のある総会にしたいと考えています。

最後になりましたが母校大阪医科大学ならびに仁泉会の益々のご発展をお祈り申し上げ、年頭の挨拶とさせて頂きます。

年頭所感

大阪府支部連合会会長 佐藤公彦（学12期）

平成 29 年の新春に当り、謹んでお慶び申し上げますと共に、所感の一端を申し述べさせていただきます。

最近の産業医活動では長時間労働が問題となっている。具体的には、検査対象となる社内パソコンの on-off の励行、即ち、on の状態は勤務中の扱いとなり、例えば、1 日 20 時間勤務と云った長時間労働枠に嵌められてしまう事、或は、事業場の夜間 9 時以降をロックアウトする等、所謂 36 協定（労基法 36 条）による指導がなされている。

昨年 11 月に実施された電通の長時間労働勧告に対する厚労省の強制検査は、24 歳東大卒女性社員の過労死が突破口だったが、彼女の死因は 1 年前の飛下り自殺だった事、美人社員だったとか、広告媒体の I C 化に電通が出遅れた事等、衝撃的事件だった。嘗ての広告媒体が新聞雑誌に限られていた時代では、隆盛を極めてきた電通の威力は強力だったが、同業他社の躍進と相俟って、電通の凋落は否めない感がある。過去約 30 年、年間自殺者 3 万人超が公表されていた中で、1 部上場会社の自殺者各個人については、電通がマスコミ発表を押さえていた威力は風聞しているが、当該事件の報道は隠蔽体質の電通にとって、屈辱に耐えなかったと思われ、

凋落傾向を垣間見たようだった。

過労死はマスコミ用語で、医学的には脳梗塞乃至心筋梗塞等による死亡だが、「死の四重奏」の内、最近、糖尿病治療に画期的改善が見られ、患者の前途が開かれた事で、検尿拒否者もいなくなり、健全な健診がなされるようになって、過労死は激減した。

ストレスチェックは自殺防止の観点からなされた制度だが、私は恫喝後遺症のホテル従業員に対する面談とか、人事担当者で高ストレス者の面談等に駆り出されるようになった。同チェックは海外版へと進展していくようである。

企業の栄枯盛衰は戦争の勝者負者であり、それには戦略と戦術を伴う。戦略とは大局的・長期的な計略を云い、戦術は目前の戦闘に勝つ為の方法・手段を云うが、両者が両輪となって前進しなければ戦には勝てない。

幸いにして母校では法人強化、医薬両大学の相互発展、B N C T 、国家試験戦略等、素晴らしい戦略・戦術の素地が実績として示されていて、自然発的に応援したくなっていくようである。本年も何卒宜敷くお願い申し上げます。

「新しい酒は新しい皮袋に」というけれど

西区支部長 浅野彰彦（学32期・日生病院神経内科）

私が昭和 58 年に卒業し本学第一内科での研修を経て現在の日生病院に赴任したのは、平成 8 年の GW 明けで当時私は 38 歳でした。高医 20 期卒業で開業していた父親は 69 歳で、そろそろ医院の承継を考えながらも数年ほどは先輩の部長方のお手伝いをするつもりでおりました。しかしながら諸事情のため退職・開業の決意がつかぬまま、とうとう勤続 20 年の表彰を受けるまでご奉公することになっております。

さて、日生病院は大正 13 年に日本生命済生

会が設立されたことに始まる長い歴史を持っています。現在の建物は昭和 57 年に同じ西区の新町から阿波座の材木市場跡に移転してきましたので、私の医者人生よりも 1 年先輩ということになります。10 年ほど前に大規模改修を行いましたが、既に最新の医療環境を確保するのは困難な状況となり、現在新病院の建設が進んでおります。タイムスケジュールとしましては今年 12 月末の竣工（移転は平成 30 年 GW 明け）予定となっております。

院内では新病院のコンセプト（医療とアートの融合！）に従って、多くの委員会やワーキンググループでの検討会が頻繁に開催されています。私も当院の発展はもちろん神経内科部門の充実のため、大阪医大の関連病院として恥ずかしくないよう鋭意努力してゆくつもりであります。しかしながら、医師として研修を始めたときや日生病院に着任したとき、そして部長職を拝命したときのような心の昂ぶりにはややかけているのが本当のところです。

その原因の一つは自分にあります。というのは昭和 57 年に建設された現在の建物が耐用年数を過ぎたという事実が、なんとなく私の医者人生にとっても象徴的なことがらのように思えるからです。ちょうど新病院が竣工し移転作業に忙しい平成 30 年 3 月 14 日で私は満 60 歳の定年となります。就業規定では一応「定年再雇用」とか「定年延長」で 65 歳まで働くことにはなってますが、後輩たちのキャリアアップを邪魔する存在となるのは気が進みません。そしてもう一つは、私の出身医局の旧第一内科が再編成され神経内科部門は新しい第四内科の所属になることです。いわば故郷が再開発され街並みがまったく変わってしまうような寂しさも一因であります。

さて、このような事象が生じてくる時期に、自分はどういう立ち位置にいるべきなのかと思うときに、表題の「新しき酒は新しき皮袋に盛れ！」という言葉が思い起こってきたという

次第です。とはいえる年早々マイナス思考でいるわけにも参りません。新しい酒が熟成するにも時間がかかることでしょう。おいしく飲み頃になるまでは古い皮袋の残り酒でも振舞いながらすごさせていただくことにいたします。

「終わった人」

北区大淀支部長 山田勝彦（学34期）

新年明けましておめでとうございます。

新年のご挨拶の冒頭から「終わった人」で、誠に申し訳ありません。これは内館牧子氏の定年後男性の悲喜交々をシリアルにユーモラスにリアルに描いた小説の題名です。“定年って生前葬だな”という衝撃的な一文から始まる本書の中で、内館さんは“定年後には何の肩書も残されていない。大企業の肩書があるからこそ、たくさんの催し物に呼ばれていたが、それすらも無くなった。それが「終わった人」への世間の対応なのである。”と書いています。また、あとがきの中で“若い頃に秀才であろうとなかろうと、美人であろうとなかろうと、一流企業に勤務しようとしていると、人間の着地点って大差ないのね。社会的に「終わった人」になると、同じで横一列だ。本書の主人公のように、着地点に至るまでの人生が恵まれていれば、かえって「横一列」を受け入れられない不幸もあるし、「社会的に終わった人」と聞いて愕然とする人もいるだろう。一方「俺にはボランティア活動がある」などと自分のアイデンティティを外に求める人もいるはずだ。だが時間の差こそあれサラリーマンは「社会的には終わった人」になる可能性が高い。”と述べています。サラリーマンだけでなく、我々医師も、勤務医であれ開業医であれ、いずれは医師という衣（ころも）を脱ぐ時が必ず来ることを考えると、読んでいて他人事とは思えませんでした。しかし、仕事

上は医師という衣を着ていても、中身は自然（じねん）から生まれ、自然に帰る産物と気づくと、始まりや終わりは流れ（変化）の通過点で、流れが本態であると気づかれます。もちろん一人一人の存在が無意味なものであるということではありませんが、こういった気づき・覚醒は人生の意味を考える上で一助になると思います。

テクノロジーの進歩により、日々の生活が便利になった反面、グローバル化の影響で様々な分野での二極化が進んだため、差別と憎悪が世界中で増え続けています。また皮肉なことにグローバル化が進むにつれ、各国が内向きになり、世界協調の空洞化が生じています。このような混迷した時代こそ毎日毎日を覚醒して過ごすことがいつまでも「終わらない人生」の要諦だと思います。その思いを込めて、仁泉会会員の皆様方、大学教職員の方々、そして大阪医科大学がいつまでも「終わらない人や組織」であり続け、今年一年が充実した年になることを祈念して年始の御挨拶とさせて頂きます。

脳神経外科病院における 脳卒中一次予防

生野区支部長 村田高穂（学22期）

仁泉会同窓の皆様、新年おめでとうございます。

小生、1985 年大阪市生野区に脳神経外科病院を開業し、本年 4 月で 32 年を迎えます。

この間、急性期脳神経外科手術と回復期リハビリテーション（以下リハ）病棟からなる「脳卒中サイクルケア」を中心としたミッションとして地域医療を行ってきました。

脳卒中サイクルケアの中心は急性期から回復期リハに至る脳卒中総合診察ですが、厚生労働省は全ての疾患の「予防医療」の推進を強調し、

脳卒中診療においてもその一次予防の重要性が指摘されています。

脳神経外科病院における脳卒中予防のひとつに「未病の脳卒中予備群」としての無症候性脳血管障害（以下 CVD）の治療があります。

以下、2 年 6 ヶ月間の脳ドック検診の実状および無症候性 CVD の手術結果について考察しました。対象は、上期間の脳ドック検診群 242 例と同期間の無症候性 CVD 外科治療群 93 例です。初期診断は一定撮影条件の MRI 画像により、MRI での無症候性 CVD 陽性例は、三次元 CT アンギオ（3D-CTA）による確定診断の後手術適応を決定します。MRI は TOSHIBA EXCELART Vantage 1.5 テスラ、CT は 64 列 TOSHIBA Aquilion CX 使用。

結果は脳ドック検診の無症候性 CVD 37 例、陽性率 15.3%。内訳は、未破裂脳動脈瘤 13 例、頸部内頸動脈狭窄 5 例、陳旧性脳梗塞・脳出血他 19 例。無症候性 CVD に対する外科治療の内訳は、クリッピング 53 例、コイル塞栓 8 例、頸動脈内膜剥離（以下 CEA）25 例、頸動脈ステント（以下 CAS）7 例。手術成績は、57 例の未破裂脳動脈瘤治療の modified Rankin Scale（以下 mRS）2 の morbidity 1 例 1.8%、mortality 0%、CEA と CAS 28 例の morbidity 1 例 3.2%。完全社会復帰率（mRS 0-1）は未破裂脳動脈瘤の 98.2%、内頸動脈狭窄の 96.8% でした。

未破裂脳動脈瘤はくも膜下出血の原因となるため、脳動脈瘤の部位・大きさ・形状と年齢・全身状態から適応判定し、治療はクリッピングを第 1 選択とします。頸部内頸動脈狭窄はアテローム血栓性梗塞の原因となるため、狭窄率と血栓の性状を検討して CEA または CAS を計画します。無症候性 CVD に対する脳神経外科手術は、適切な適応判定と morbidity の有意に低い手術を条件に脳卒中予防として有用と考えます。

新春を寿ぎて

阿倍野区支部長 福本敏子（学24期）

仁泉会の先生方には、恙なく新年をお迎えのことと存じます。阿倍野支部は一昨年体調をくずしておられた藤本正三先生、文殊敏郎先生も無事に仕事に復帰され全員恙なく新春を迎られました。今年も、会員一同こころを合わせて助け合い病診連携、診診連携を図り、仁泉会の絆をより強固にしてまいります。

同窓の先生方には、一層のご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

新春のごあいさつ

豊中市支部長 渡邊一三（学34期）

2017 年が幕を明け、心新たに希望に満ちた 1 年にすべく決意していることと存じます。まずは新年にあたり、恭賀新年、真摯な気持ちでご祝儀申し上げます。

私は 2000 年 3 月わたなべ医院、2001 年 1 月医療法人三和会 わたなべ医院、通所リハビリ併設、2010 年 7 月住宅型有料老人ホームいこいを併設、大学を離れて、はや 17 年が過ぎようとしております。先進医療を行う大学とは異なり、患者さん一人一人と向き合って地に足をつけて地道な医療をしております。大阪医科大学は、私にとってかけがえのないものであって、感謝にたえません。臨床医として診療をしている中、約 15 年大阪医科大学一般・消化器外科で培った辛抱強さ、不屈の精神力、強靭な体力を基礎に、日々精進しております。昨年も執筆させていただきましたように、大学時代の厳しい医局生活があったからこそ、今の生活はなんの苦もなく、地域医療をやりがいのあるものと

信じ、日常過ごしております。私のこれまでの人生を振り返り、座右の銘は、七転び八起きならぬ、八転び九起きです。

私にも医学生の子供がおります。昨今は大学の成績がよくても国家試験に不合格というケースがあり、大学入学時から、かなり勉学に励まないと進級できないシステムになっているようです。子供は心の中でビクビクしながら、大学生活を送っているようです。油断していると平気で落とされる中で、はたしてうちの子供に情けは育まれるだろうか？ 医は仁術と申しますが、医師は情けをもって患者に向かい、診療後、患者を安心させて帰宅させてあげることが、大切であると思っています。研究生活をして国家に寄与する志を持つ学生はともかく、学生の多くは、端的にいえば国家試験に合格すればいいと割り切っていると思います。肝心なことは、医師になってから、親身に患者を診させていただくという謙虚な気持ちです。気概をもって医療に取り組み、かつ、情のある医師を養成ことも大学の役目ではないかと思います。私たちの学生時代と今とでは、時代そのものも考え方も異なりますが、学生時代を落第することなくギリギリで通過した私の仲間の中には、卒業後、情のある立派な医師になっている人が多くいます。どうか、大学は国家試験と無関係の問題で学生に余分な 1 年を送らせないように、情けをもっていただきたい。学生は真面目に医学を学ぶと同時に、大学側も学生に無駄な労力をかけさせず、医師国家試験に一発で合格させる環境を作っていただきたい。卒業生は、もっと先の重大な光明をみつめて、情のある医師になってほしいと思います。簡単でございますが、新年のあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

枚方交野市支部長 森川浩志（学 36 期）

仁泉会会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。昭和 62 年大阪医大卒業後は、第二内科（当時大柴内科）に入局し、その後約 15 年間、臨床は消化器内視鏡診断・治療、研究は癌の遺伝子学的解析を中心に診療・教育・研究に従事しておりました。大学退職後は、駅前の便利な場所で、内視鏡に特化したクリニックを開設したいと思っておりました。御縁があり、平成 13 年 3 月 1 日、京阪枚方公園駅前で開業することとなりました。

自宅も大学も高槻市で、枚方は初めての土地でしたが、大学野球部大先輩の藤平医院・藤平亨先生（学 11 期）、市立ひらかた病院院長森田真照先生（学 28 期）や、大学同級の市立ひらかた病院呼吸器内科の大上先生、脳外科の稻田先生はじめ、顔なじみの諸先生方が、多数おられましたので、不安なく開業させていただきました。藤平先生には、枚方医師会長先生や近隣開業先生方の、あいさつ回りも同伴していただき、クラブの先輩とは本当に有難いものだと思いました。

苦痛のない内視鏡検査を、駅前の便利な場所で、待ち時間なく施行してあげたい思いは、以前から強くありました。例えば、「血便が出たから」と病院を受診して、大腸の内視鏡検査が 1 ヶ月も先なら、不安や心配で待てないと思います。早期に、大腸内視鏡を施行し、小回りのきく開業医ならではの、迅速な対応を心がけております。胃・大腸内視鏡検査は、月曜日から土曜日まで毎日実施しております。胃内視鏡検査は毎朝 8 時から実施しており、検査後に出社可能で、お仕事や学校に行かれる方には、好評です。

また、内視鏡検査は鎮静剤を使用することで、

苦痛のない内視鏡検査に心がけております。患者さんに「あんなしんどい検査、もう二度としない」と思わせてしまったら、その人はずっと検査を敬遠するかもしれません。それで病気の発見を遅らせることになったら、最初に検査を施行した医師の責任は重いと思います。

内視鏡検査を施行する上で、病気の早期発見、特に小さな癌を見つけることに、特に重点を置いております。周辺の開業医の先生方ご紹介や、患者様の口コミでの紹介などもあり、年々、症例数は増加しております。

開業当初より、日替わりで専門医を招いて専門外来を実施しております。循環器は、森本大成先生（学 37 期）、大関道薫先生（学 56 期）、ペインクリニックは同期の片岡寛人先生はじめ、日替わりで大学の先生方に助けていただいております。多数の先生方に助けていただいて、無事 16 年が経過しました。今後も、地域医療に貢献できるように、微力ながら頑張っていきたいと思います。

仏教哲学

東大阪市支部長 大西洋一郎（学 25 期）

謹賀新年。

バスコダガマ、エンリケ航海王、マルコポーロ、黒田長政、どの時代にも、インド洋には貿易風が吹いていた。太古から吹いていた。季節の風に乗れば、容易に、アフリカからインド、インドネシア方面に行き来ができていた。インドネシアには 2 億人以上のイスラムがいるのは、うなづける。カースト制のインドでは、バラモンが国外に出るのは禁じられていたので、シユードラ等の下層が印僑として東南アジアの方面に渡っていった。現代でも印僑、華僑が商売に非常にシビアなのである。北インドネパールの近くに約 2500 年前、釈迦国があり、

宗主国としてマガタ国があった。王子釈迦は、カースト制のもと、クシャトリアであったが、バラモンのまねごとをして放浪していた。行き倒れていたところ、裕福な商人の娘スジャータにミルクをもらい、九死一生を得ると、バラモン様は助けなきゃという、父娘の厚意に甘えて、居候をした。バラモンのまねごとをするのは、カースト制のもとでは死を意味することで、高弟たち、釈迦も暗殺されることになる。弟子の持ってきた毒キノコに当たったということになっている。釈迦の中心思想は縁起で、対機説法で明らかにしていった。最初の説法が初転輪法である。物と事とは関係性がある。つまり縁起がある。西洋流に言うと、カント（1724～1804）は「アприオリーナのものは何もない」と言う。約 2000 年前ナーガルジュナ龍樹が縁起を論理的に発展させ空の思想にまで高めた。空仮中の中觀派、大乗佛教の出現である。ヒモ理論がある。物質は場にあって、最少単位のヒモの振動で物質の状態にも、空の状態にもなりうる。空・仮・中の中觀派はむつかしい。対して、チベット佛教のソンカバは釈迦は何も言っていないと言う。なぜなら空の思想であるから、今のダライラマにつながる宗派である。空は無と有を包摂した考えであるが、無は道教の考えであり、不確定性原理が立証された現在ではあり得ない。一神教、ニュートン力学は成立し得ない。現存在はすべからく偶然により成立していると言える。AIN シュタインは「神はサイコロを振らない」と言い、量子論のボアは「神のすることに文句を言うべきではない」と言った。ビッグデーター処理にディープラーニングが利用され、その先には量子力学が実用化、応用利用される。西田幾多郎の絶対矛盾の自己同一と言う言葉がうかんでくる。

祈大阪医大発展 2017.1.1

平成 29 年新年のご挨拶

堺市支部長 村木宏要（学 27 期）

仁泉会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

医療現場を取り巻く厳しい環境に神経を使い、介護問題を抱えさらに、我が身の健康問題に気づく年齢となりました。弱気はダメですね。

さて、本会では、今年度 3 名退会（死亡退会 1 名）があり、42 名となりました。勤務医の入会が極めて少なく、会員数は増えません。（大阪医大入学の子息数も少ないようです。）

今後も会員運営に努め会員を増やすよう頑張ります。ご指導お願いします。



後列左より 徳原、疋田、天上、吉良、北村、武市

中列左より 太田、北川、田村、宮前、中野、中田、藤田、辻本、萬代

前列左より 後藤、定延、村木、小山、渭東、斎藤

本年の食事会

第一回 フレンチ「ラ・フェット平松」北区中之島 平成 28 年 5 月 7 日

第二回「てんぶらの一宝」西区江戸堀 平成 28 年 10 月 22 日

平成 28 年支部総会及び懇親会

1. 支部総会

平成 27 年 11 月 26 日（土）に本支部総会を行いました。開会の挨拶のあと、本年 5 月に亡くなられた木下裕康先生（学 14 期）に黙祷を捧げました。

本年度会計報告、監査報告に続いて、本会の規則改正を始め、様々な議論を行いました。

（議案審議）

1) 堀市支部会互助会解散について

2) 堀市支部会規約改正

①今後の会費について

②今後の会員の慶弔について

③会員名簿について（未決）

（懇親会）

引き続き懇親会は中田英二副支部長（学 28 期）の挨拶、そして、小山一男先生（高医 17 期）の乾杯発声にて始まりました。今年はゲストなし、新入会員なしのため少し盛り上がりに欠けましたが、引き続きいろいろな話が飛び交い宴だけなわとなり、話はつきませんでした。記念撮影を行い、最後に武市直範副支部長（学 30 期）の締めの挨拶でお開きとなりました。

出席者名（21 名・敬称略）

小山一男（高医 17 期）	渭東祥晃（学 6 期）
定延和夫（学 11 期）	後藤紀夫（学 14 期）
斎藤振二（学 21 期）	宮前有子（昭和医 51 期）
村木宏要（学 27 期）	藤田素樹（学 28 期）
中田英二（学 28 期）	武市直範（学 30 期）
北川友朗（学 33 期）	田村友彦（学 36 期）
中野慎一（学 37 期）	疋田米造（学 37 期）
天上俊之（学 40 期）	北村洋（学 40 期）
萬代正治（学 41 期）	太田俊輔（学 44 期）
徳原孝哉（学 48 期）	吉良俊彦（学 48 期）
辻本直之（学 51 期）	

新年のご挨拶

岸和田市支部長 大植 瞳（学 40 期）

新年明けましておめでとう御座います。

昨年より前支部長の谷川泉先生からのご指名で岸和田支部長を務めさせて頂いております。

当地は私の生まれ故郷で、18 年前に現在勤務している葛城病院に病院長として赴任しました。帰郷して驚いたことは、岸和田市を含めた泉州地域に百数十名もの大阪医大卒業生が医療に携わっているということでした。しかし、それ以上に驚かされたのは、それだけ多くの同門がいながら、その繋がりが非常に希薄で仁泉会としての集まりがあまり無いということでした。赴任した地で、今後の方向性を模索するに

当たって相談できる繋がりや機会が無かったことは本当に心細く寂しい思いでした。帰郷して数年後に、同門の数人の発案で、2 年に 1 回ですが泉州ブロックで集会を開くことができるようになります、ようやく同門の絆ができ始めたように思います。まずは、この集会を継続して、さらに、現在、仁泉会の活動に消極的な若手の入会や活動の活性化を目指したいと思います。そのために、次年度から 2 年間にわたり大阪医大 P A 会会长を務めさせて頂く予定となっていることから、卒業前から学生に仁泉会の存在を知って、馴染んでいただき、卒業後は仁泉会に入会していただけるように活動する事から始めたいと考えております。

皆様の御指導、ご鞭撻をいただけますよう御願いいたします。

新年のご挨拶

兵庫県支部連合会長 日下孝明（学 16 期）

あけましておめでとうございます。酉年生まれの先生方は 5 つの徳をお持ちになっているそうです。知、信、仁、勇、厳という徳だそうでござ活躍をお祈りしております。

メディアに踊らされているのか今世間はアメリカの大統領、お隣の国の大統領、イギリスの EU 離脱など騒がしく、大きく何が起こるのか、固唾をのんで見守っています。

さて、日本では 2025 年高齢化のピークに向かって人口も減少に転じたようです。都市部への人口集中と地方の過疎化が進む中で医療、特に中小病院のまさに生き残りをかけた対策が急がれます。地域医療包括連携システムの構築の中で積極的に出来ることを発信する必要があるようになります。母校の発展、拡張ぶりを見て老婆心ながら心配をしております。

兵庫県は瀬戸内海と日本海に面する唯 2 の

(一つは山口県) 県ですが兵庫の医療は日本の医療のすべての縮図でもあり、都市型医療の問題、過疎地の医療などの問題、医師の偏在の問題など解決すべき課題は山積しており、対応が一筋縄ではいかないのが現状です。そこで同門の先生方の連携、支援が大きな力となる事は間違ひありません。

私たちの兵庫県にはおよそ 900 人の仁泉会会員が在籍しております。県内支部として神戸、尼崎伊丹、西宮、宝塚、川西、東播、姫路、但馬の 8 地区が登録されています。それぞれの地区で会合が持たれ、懇親を深めていますが、一堂に会することは帰る時間を考えると地理的にもなかなか困難です。各支部が、地域に赴任した新しい会員の情報を集め、講演を依頼したり、本部からの情報支援を要請しながら、お互いに連携することをお願いしております。また年 1 回、神戸支部の総会に各支部長の参加をお願いし、楽しい懇談の中で情報の交換をしております。

今年もよろしくお願いいたします。

明けましておめでとうございます

**神戸支部長
増井裕嗣（学 29 期）**

新年明けましておめでとうございます。昨年の神戸支部総会で安藤嗣彦先生（学 20 期）の後任として神戸支部長を仰せつかりました。副会長には飯塚信行先生（学 24 期）と米田 豊先生（学 30 期）、会計には井尻慎一郎先生（学 31 期）、庶務が中本博士先生（学 39 期）と藤田能久先生（学 47 期）、そして監事に日下孝明先生（学 16 期）と佐々木義信先生（学 16 期）の布陣で運営して参りますのでよろしくお願ひいたします。神戸支部は確認できるだけで約 190 名の会員を有する大きな組織で、神戸 9 区、芦屋市、

明石市、三木市、淡路、三田・摂丹の 14 地区で構成されております。

従来からの新年会、6 月の支部総会に加え、5 年前から 11 月に神戸西地域の会員を対象にしたフォーラムを開催しております。これは藤原弘久先生（学 13 期）が音頭をお取りになって、地元の基幹病院の気鋭の先生に講演していただいている会合です。昨年は明石医療センター循環器内科部長の足立和正先生（学 42 期）に「不整脈マネージメントと高血圧治療」の講演をしていただきました。さて今回のフォーラムには神戸西地区で薬局を開いておられる 4 名の大坂薬大 OB、OG の参加がありました。講演後に仁泉会会員 18 名との合同懇親会が和やかに行われました。おそらく各地仁泉会の会合の中でも最初の大坂医科大学 OB 合同会であったと思います。このフォーラムを神戸支部の 3 番目の定期行事として確たるものにしていくのが私の役目と考えております。

今年は 5 月 28 日に神戸ポートピアホテルで仁泉会本部の総会が開かれます。神戸支部としてもできる限りご協力させていただきますので、多くの先生にご参加いただきます様お願いいたします。

仁泉会西宮支部超改革の年

**西宮支部長
原 均（学 31 期）**

仁泉会西宮支部の支部長を平成 28 年 4 月から仰せつかった学 31 期の原と申します。西宮市北口町で開業しております。

仁泉会の皆様、新春のお慶びを申し上げます。

新しい年になるとまた 1 つ年をとるなあという感じです。少しずつ人生のゴールに近づいていますが、スローライフを楽しんでいます。

しかし、世の中の動きは非常に早く、今や、

50 年前の手塚治虫先生が漫画で描いた世界が現実化されようとしています。また人工知能の発展により、2030 年代には世の中が想像に絶するほど変化していることと存じます。我々、医療の世界も人工知能を有するロボットが活躍して人間にとて代わって仕事している部門が多いのではないかと思います。

仁泉会西宮支部におきましても、昨年から超改革をめざし大きく変化しつつあります。前支部長の乃木稜介先生（学 28 期）から支部長を引き継ぎ、今年度の役員として、副支部長に岩下敬正先生（学 36 期）、会計に瀧川直秀先生（学 42 期）、幹事に山陰圭一先生（学 31 期）にお引き受けいただき活動しています。

平成 28 年 7 月 2 日に行われた仁泉会西宮支部総会出席人数が 40 人を超えるようになりました。西宮支部会は開業医の先生ばかりの集まりではありません。勤務医の先生も多数おられます。従って、仁泉会支部総会の意義は？ 仁泉会本部との関わり合いは？ 大学と病院（勤務医）また開業医の先生方とそれとの間での win win の関係を保つにはどうしたら良いか？ 今後、いろいろな対策を講じていかなければ、出席していただける会員数が少なくなっていくことでしょう。魅力ある仁泉会西宮支部にするためには、各個人が仁泉会の一員であることの自覚を持っていただきたいと考えております。それには意識改革が必要です。まず自分自身の意識改革から始めたいと思います。魅力ある西宮仁泉会を持続するために、先生方が総会に参加していただき、仁泉会西宮支部に対しての意見をぶつけさせていただく事が重要です。そこで出していく御意見を慎重に会員の皆さんで討論し、1 つの方向性を導きましょう。方向性がきまったら、各自が目先の利にとらわれず、少しでも仁泉会西宮支部に協力していく心構えをもって行動していただきたいと思います。

今年は、まず意見の出しやすい場を作るこ

とを考え、一歩一歩、魅力ある仁泉会西宮支部の礎を作りたいと思います。皆さんご協力のほどよろしくお願ひいたします。

また、今年も仁泉会の皆様にとってすばらしい年でありますように祈っております。

新春のご挨拶

**宝塚支部長
辰井 光（学 32 期）**

新年あけましておめでとうございます。

私が宝塚市で開業してもうすぐ 16 年が過ぎようとしております。阪神大震災の年に大学の医局を離れて長岡京市の関連病院に 6 年奉職した後、縁あって当地で開業しました。本学卒業後、実家は宝塚市に転居しておりましたが、当地での診療経験はなく医師としては全く右も左もわからないままの開業でした。当時は宝塚市の医師会長を連続 4 代大阪医大出身の重鎮の先生方がお務めになっており、手厚く応援して頂いたおかげで何とか軌道に乗せることができました。

皆さまご周知のとおり、宝塚市は歌劇で全国的に有名な街です。そのイメージ通りハイセンスな街で近隣の住民も概して生活・知的水準共に高い方が多く、それだけに南河内に近い堺市の南部のいわゆるディープな地域に生まれ育った私にとっては何かと戸惑うことの多い開業スタートになりました。

整形外科はご存知の通り診療単価が安いので患者の皆様にはせっせとリハビリ（物療）に通つていただかないと収益が上がらないのですが、当地では通院頻度が週 1~2 回という患者様の頻度が高く（どうやら趣味や教養に時間を割かれたりリハビリ通院は二の次と思われる風潮が強いようです）、大阪や阪神間の他市で開業した先輩や同僚などに聞いても患者一人の月当たりの通院日数が随分少なく、経営が安定するまで時

間を要しました。

土地柄上品な宝塚歌劇団のお嬢様方がよく受診されますが、私は見かけがいかつい上に声も大きいのでどうやら当初は随分怖がられたようで歌劇ファンの家内に「後生だから優しく接してあげて」と懇願されて、今では「何組ですか？ 今の演目評判いいよね！」とサービストークが出るまでに成長しました。

さて、当市仁泉会の会員構成の観点から申しますと、歴代医師会長を仁泉会員より輩出した黄金時代からは世代交代が進み会員数も若干減りました。最近は若い世代に有能な同門の開業が続いて、患者様を紹介しても評判がよく誇らしく思えることが増えました。人数がやや少ない分、仲もよくまとまってきた印象です。

私のような若輩が支部長を務めるのには荷が重い感じがしないでもないですが、仁泉会の草の根活動の一助になればと微力ながら頑張っていく所存です。

諸先輩方から身をもって教えられた古き良き大阪医大の誇りや持ち味を後進世代に引き継いでいければ、と思いを新たにしております。本年も何卒よろしくお願ひいたします。

新春雑感

川西支部長 土肥恒夫（学28期）

新年あけましておめでとうございます。仁泉会会員皆様におかれましては、すこやかに初春を迎えていらっしゃることとお喜び申し上げます。

「来年は来年とて暮れにけり」という句がありますが、まさにその来年がきました。「一年の計は元旦にあり」ということわざにならい旧年の良かったこと悪かったことを振り返り新年的のプランを立ててみます。

良かったこと

①患者番号が 30000 番を超えたこと（6 月）

②開院 20 周年を迎えたこと（7 月 1 日）

①と②はスタッフに慰労金で報いた。しかも 15 年以上一緒に働いたスタッフが 7 人もいてくれたことは院長冥利につく。こういうお金は一つも惜しくない。

悪かったこと

①年金事務所から厚生年金納付額について調査が入った（9 月 13 日）

②労働基準監督署から労働保険の保険料について調査が入った（10 月 7 日）

③介護保険の監査が入った（10 月 25 日）

①と②は我々のような小規模事業所にまで調査が入るほど役所のノルマが切迫しているのかと同情すら覚える。社会保険労務士がすべて対応。事なきを得た。

③は準備が大変だった。人員、設備、運営に関する書類全部計 27 項目を揃えるのに 2 ヶ月かかった。当日には 5 人の役人により重箱の隅を杓子定規にねちねちと、もとい、懇切丁寧な御指導を受けた。

さて、新年にあたり次の大台越えは何時だろうと思う。1 万番に 8 年、2 万番に 6 年、3 万番に 6 年かかったから 4 万番は予定では H35 年だ。年号の平成はどうかわからないが、私的には診療をしているつもりだ。しかし、30 周年を迎えるかどうか自信がない。65 歳を迎えると健康第一、家内安全という言葉が実感を持つ。大病を乗り越えてきたわが身には一層意味のある熟語だ。調査と監査は、今年は堪忍してほしいというのが本音だ。

最後に触れておかなくてはならないことがある。ほんとの当院にとっての旧年最大の慶事？ は実は問題社員を一般退社（労働基準監督署の眼が厳しい懲戒退職ではない）させたこと（7 月 20 日）だ。就労意欲に乏しく、態度の悪いスタッフ（採用したのは当の私なのだが）には手を焼いたが、始末書を何回書かせて懲戒処分を繰り返し行い、自ら退社に持っていた。退職者が出るとその分スタッフが減り忙しくなるこ

とに勝るうれしさを感じるのは、ほかの頑張るスタッフに示しがつかないからか。一人の性悪社員を辞めさせるにあたり甚大なる時間を要するのは、残り 44 人のまじめに働く社員に対する逆差別ではなかろうかと思う経営者は私一人ではないはず。

以上、旧年と新年とのはざまに一院長の雑感を述べさせていただいた。論語より次の二説を引用して終わりにします。

「歳寒くして然る後に松柏の影むに後るるを知る」

苦しい時を乗り越えてこそ人の本当の価値は現れる。



新年のごあいさつ

岡山県支部長 小出尚志（学28期）

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

仁泉会岡山支部も再興 3 年目に入り、支部活動の活性化にむけて支部長の責任の重さを痛感すると共に身の引き締まる思いであります。

さて、最近、様々な分野で人工知能が応用されはじめています。対話型ロボット pepperくん、会社や銀行での来客の応対場面も珍しくなくなりました。pepperくんは、導入した介護施設でも入所中の高齢者の人気者になっていると聞いています。車の自動運転や、東大受験プロジェクト、プロ棋士との囲碁対局など、人工

頭脳（AI）の進化は目覚ましく、次世代イノベーションの主役の一つでもあります。

医療界においても人工知能の応用は進んでいます。IBM の人工知能 Watson は、cognitive computing system – 経験から学習することができるシステムで、膨大なデータを瞬時に解析し、特徴や傾向、類似点や特異性などを学習・認識すること得意分野とし、すでに一部の医療機関に導入されてデータ分析や画像解析の機能のみならず臨床診断の領域においても熟練した医師を凌駕する実績を上げつつあるとのことです。AI の進化で医師の仕事が奪われる…との近視眼的な危惧もないわけではありませんが、地方の多くの病院で医師や看護師の採用が難しくなっている現状とともに、近々未来、確実に訪れる我が国の少子超高齢社会とその後の人口減少社会にむけて、一刻も早く多岐にわたる AI の発展と応用を期待したいと思います。

終わりになりますが、仁泉会の皆様のご健勝とご活躍とともに、本年が夢と希望の叶う一年であることを祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

香川県支部長 石田達也（学28期）

新年明けましておめでとうございます。

支部長となり、10 年目の正月を迎えました。就任当時は、総会に出席しましても、お名前を存じ上げない先輩諸氏ばかりで、孤立無援、居心地がわるく、議事進行がとても長く感じられたものです。また、「10 年先、20 年先の仁泉会像」を熱く語られる長老もおられ、驚嘆とともに、支部長の任の重さをジワ～ッと感じたものです。その後、年々各地で支部長の交代劇が進むようになり、気が付けば顔馴染みの世代が多く参加する総会となりました。ただ、気は楽に

なってきたものの、どこか世代交代がもたらす一抹の寂しさも感じております（先輩方のこれまでの努力に感謝します。）

さて、香川県支部ですが、幹事の伊達学先生（学 31 期）と会計・庶務担当の安賀文俊先生（学 51 期）が実務を取り仕切ってくれており、困ったときには前任の会計・庶務担当大谷昌裕先生（学 40 期）が駆けつけてくれます。この 3 名の御陰で香川県は安泰であると言っても過言ではなく、毎年 3 月に支部総会も安心して迎えております。有り難い限りです。

昨年の支部総会には、大森信介先生（学 53 期）、大北仁裕先生（学 54 期）、三浦歓之先生（学 54 期）が新たに参加してくれました。久々に若い会員が加わり、皆、嬉しさ倍増。話題にも

新鮮さが乗り、香川県支部の新しい風を感じることができました。嬉しいものです。また、田中嘉雄先生（学 28 期）が香川大学形成外科学教室を早期退職し、高松市中心部で形成外科・美容外科クリニックを開設するとの話には皆ビックリ。しかし、「教授として教室づくりも一段落ついたので、これからは正統な形成外科を広めたい」という熱い思いを伺い、皆驚きから一転称賛の声に。香川県に残り、地域医療への道を選ばれた田中先生の成功を支部会員一同祈念しております。

さて、今年は新しい会員としてどなたが顔を出して下さるか楽しみです。本年もどうぞよろしくお願い致します。

第 30 回 大阪医大女医会 各科医療勉強会のご案内

大阪医大ご卒業の女性医師の先生方におかれましては、お元気にご活躍のことと存じます。さて、平成 29 年度の大坂医大女医会 各科医療勉強会のご案内を申し上げます。今回は学 28 期の萩原暢子先生が「若者の性感染症の現状について」と題してご講演下さいます。最新の婦人科疾患についての情報を得て、また世代の違う先生方と交流する良い機会でございます。是非ともご参加下さいませ。

尚、発送予算の都合上、学 37 期以降の先生方には案内状をお送り出来ませんので、参加ご希望の先生方は下記の連絡先までお知らせ下さい。

記

日時：平成 29 年 6 月 24 日（土）午後 5 時 30 分より

場所：ホテルグランヴィア大阪 20 階 「名庭の間」

会費：15,000 円

担当幹事 学 33 期 田中啓子 大森敦子 学 36 期 祐森弘子

連絡先：大森敦子宛 メールアドレス 30kaijoikai@gmail.com

（今後メールでご連絡いただきます場合はこちらのメールアドレスにお願いいたします。）

また現在までに仁泉会事務局にお送り頂きましたご出席のメールもまとめて管理させて頂きますのでご安心下さい。）

電話 & FAX 075-462-3654

新年のご挨拶

愛媛県支部長 井関亮甫（学 23 期）

新年あけましておめでとうございます。

今年は酉年。私は、満七十歳の古希となります。今年一年、「深く想い多くを実行」しなければと思っております。

昨年十月二十二日（土）、松山全日空ホテルにて仁泉会愛媛県支部総会を行いました。出席者は次の諸先生方です。



『青春』

福岡県支部長 有吉孝雄（学 14 期）

謹賀新年、今年もよろしくお願い申し上げます。皆様の健康を祈念しております。

年頭にあたり、サミエル・ウルマンの「青春」（Youth）の詩を紹介します。

もうすでにご存知の方も多いと思いますが。

サミエル・ウルマン（Samuel Ullman）（1840～1924）は、ユダヤ系のドイツ人であったため、迫害を避けるため、1851 年 11 歳の時、両親と共にアメリカへ移住し、70 歳代でこの

金子仁（学 15 期） 長井新一郎（学 18 期）
小松紀子（学 18 期） 井関亮甫（学 23 期）
佐藤晴瑞（学 28 期） 本田光俊（学 31 期）
細田欣也（学 44 期）
(横山闘（学 15 期）先生は予定ポカ忘れて欠席でした)

昨年四月の大阪薬科大学との合併にいたる、いろいろの話題を中心に話が盛り上がりました。出席者が少ないことが残念でした。今年一年皆様にとっても、幸多き年となりますようお祈りいたします。

「Youth」を書いたものです。

この詩は、占領軍総司令部、ダグラス・マッカーサー元帥の執務室の壁に掛けられていた「青春」（英文）で、彼は友人の John · W · Lewis（コーネル大学教授）よりこれを贈られ、座右の銘として戦地にも携えていた。

この詩を岡田義夫氏（東京毛織 OB）が 1958 年頃、見つけ感動し、漢詩調に翻訳した。これが後に、松下幸之助氏の眼に止まり、あるインタビューで紹介し、新聞や雑誌に掲載され一躍有名になった。

岡田義夫氏や作山宗久・宇野収氏がそれ訳され、最近では「千の風になって」の作曲で話題になった作家・作曲家、新井満氏の自

由訳が若い世代に受け、愛好者も増えてきているとの事です。

また「青春」には改変が多く存在し、「Original 版」は 1922 年詩集「80 年の歳月の頂から」という家族の出版物の巻頭に収められているものです。

マッカーサー／岡田版は原詩ではなくて何者が一部を改作したものであると云われています。

「青春」

サミエル・ウルマン

宇野 収・作山宗久訳

(Original 版「Youth」の訳詩)

青春とは人生のある期間ではなく心の持ち方をいう。

バラの面差し、くれないの唇、しなやかな手足ではなく、たくましい意志、ゆたかな想像力、もえる情熱をさす。

青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは臆病さを退ける勇気、やすきにつく気持ちを振り捨てる冒險心を意味する。ときには 20 歳の青年よりも 60 歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。

理想を失うとき、初めて老いる。

歳月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしほむ。

苦悩・恐怖・失望により気力は地に這い、精神は芥（あくた）になる。

60 歳であろうと 16 歳であろうと人の胸には、驚異にひかれる心、おさな児のような未知への探求心、人生への興味の歓喜がある。

君にも我にも見えざる駆逐が心にある。人から神から美・希望・よろこび・勇気・力の靈感を受ける限り君は若い。

靈感が絶え、精神が皮肉の雪に覆われ、悲嘆の氷にとざされると、20 歳だろうと人は老いる。

頭を高く上げ希望の波をとらえるかぎり 80 歳であろうと人は青春の中にいる。

「青春とは、心の若さである。」角川文庫

歳を重ねただけで人は老いない。

夢・理想を失ったとき、はじめて老いる。

まさに「人生の応援歌」です。いつまでも、青春・青年でありたいと思います。

卒後 50 年を迎えて

評議員

出村 憲（学16期）

新年明けましておめでとうございます。

私は評議員に選ばれて、評議員らしき事をやっていないので、申し訳なく思っております。卒後以来ずっと開業することなく、勤務医をしています。卒後 50 年を迎えて、節目の年であります。

母校で 10 年勉強して北摂総合病院を 60 歳まで勤め（泌尿器科）、定年退職後老健「ローズマリー」を 10 年間勤めました。その折の 7 年前の 9 月に、突然母校サッカー部名誉部長の（故）植原先生から、白川重雄先生を助けてくれんかと電話が入りました（当時、白川先生は山口県リハビリテーション病院や、介護関係の施設を経営しており、大阪に進出したい意向でした）。畠違いの事で悩みましたが、リハビリテーション病院の院長を引き受ける事にしました。平成 22 年 4 月に彩都リハビリテーション病院を開院しました。現在、6 年半たちました。急性期病院での治療後の患者さんの回復・現状復帰を目指してリハビリを行っています。退院の時の患者さんの笑顔が忘れられません。

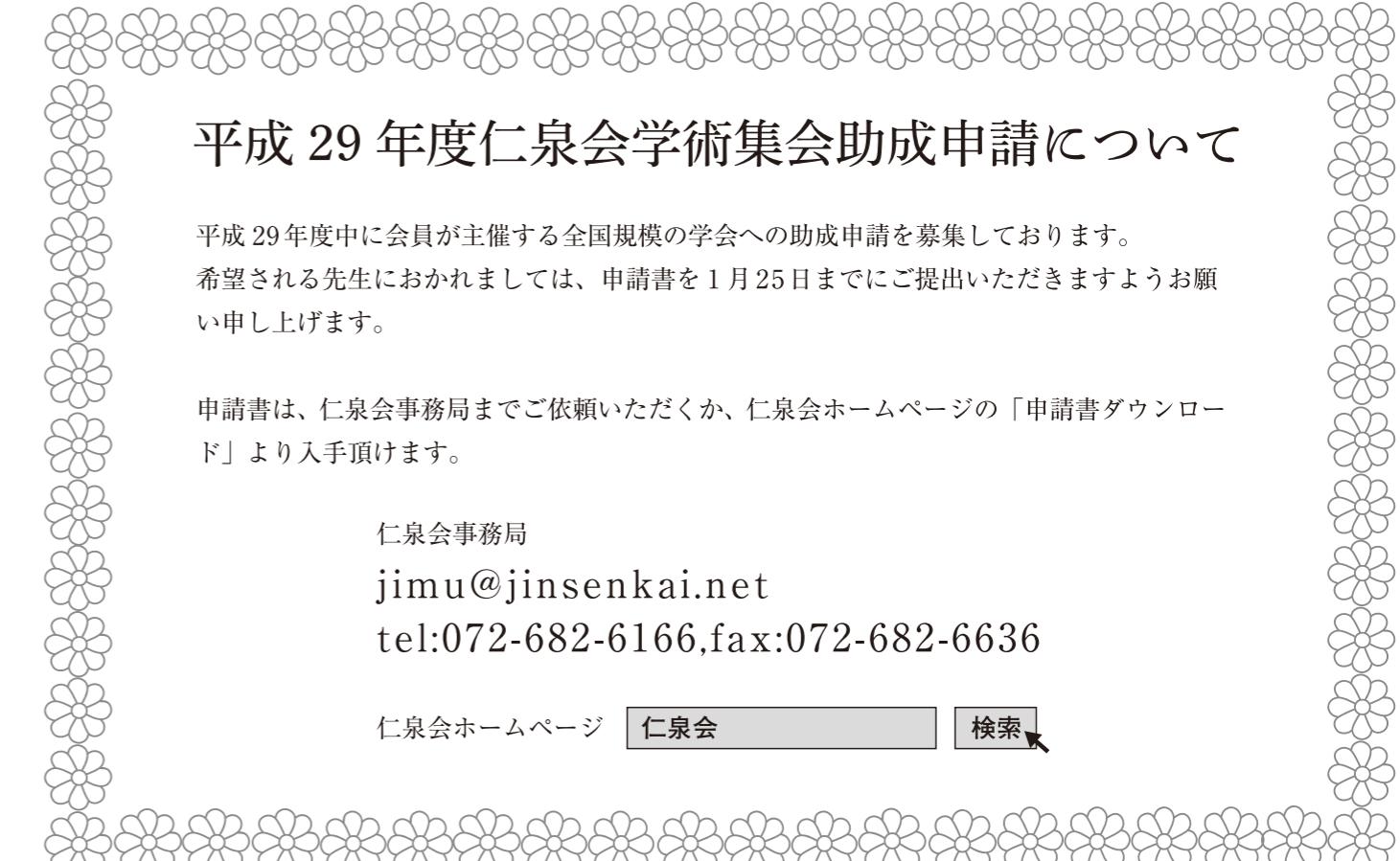
私は、2 人の教授につかえました。当時は、皮膚・泌尿器科の時代でした。初代泌尿器科教授の（故）石神穰次教授と 2 代目（故）宮崎

重教授です。いろんなことを教えていただきました。宮崎先生には、「うそをつくな」ということを入局当時に言われました。それ以来、スタッフにしつこく、いつも言っています。

石神先生には、「対治と同治」を教わりました。北摂病院に勤務して間もなく、先生から分厚い郵便物が届きました。その中の一つの論文を読んで初めてその内容・意味がわかりました。本来は仏教の言葉です。もともとは、発熱した人に氷で冷やして熱を下げるのが対治で、温かくして汗をかかせて熱を下げるのが同治と説明されていた。翻って、対治は異質なものを悪とし、ものの存在を認め、同調・肯定・共存しようとする。医学はもともと否定から始まっています（病気は悪いものだという前提）。がん告知された人の心の移りの様子、否認から受容に至る心

の移りがその例です。それ以来、事あるごとにスタッフに「対治と同治」のことを、講演などで普及してきました。大まかに言って、20 世紀の医療は対治的であった。20 世紀後半から 21 世紀になって同治的思想が強くなってきたと思う。免疫療法、再生医療など。病気に対して自分の体で治そうとする考えが出てきている。特に延命医療から見取りの医療に考えが変わってきている。世界では冷戦時代が解け、やっと対治から同治思想になったと思ってたら、最近、テロ、宗教の争い、部族間の争いなど対治的な世界になりつつある。世界が混乱の時代に入るのか。

やはり同治の思想で世界全体が仲良くなってほしいものです。



平成 29 年度仁泉会学術集会助成申請について

平成 29 年度中に会員が主催する全国規模の学会への助成申請を募集しております。希望される先生におかれましては、申請書を 1 月 25 日までにご提出いただきますようお願い申し上げます。

申請書は、仁泉会事務局までご依頼いただくか、仁泉会ホームページの「申請書ダウンロード」より入手頂けます。

仁泉会事務局

jimu@jinsenkai.net

tel:072-682-6166, fax:072-682-6636

仁泉会ホームページ

仁泉会

検索



祝・札幌医科大学教授ご就任！ 竹政伊知朗先生（学42期）

ご挨拶

文責／札幌医科大学
消化器・総合、乳腺・内分泌外科教授
竹政伊知朗（学42期）

平成 27 年 11 月 1 日付けで、札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座の教授に就任いたしました。本学の外科学教室は昭和 25 年に開設され、現在、教室員約 25 名、同門会員約 380 名の大所帯です。上部消化管、下部消化管、肝胆脾、乳腺・内分泌チームの 4 チーム体制で、『最新かつ安全・確実な医療の提供』をモットーに診療にあたっています。

私は平成 5 年に大阪医科大を卒業し、大阪大学旧第二外科に入局、国立大阪病院外科で研修後、大阪大学消化器外科で、主に大腸癌を対象として『世界に通用する医療』を目標に診療と研究に従事して参りました。これからは北海道を拠点に、国内外の教室との強い連携を図り、『北から世界に通用する医療の発信』を指標に診療と研究に取り組む所存です。

一方で、全国的な外科医不足が深刻化しています。また北海道は医師一人あたりの医療担当面積が突出して広く、外科医偏在も解決すべき大きな問題です。『世界に向けた発信』と『地域医療の活性化』という異なる方向性を持つ二つの目標を達成するためには『人材育成』が最も重要だと考えています。患者さまからも医療職仲間からも信頼される外科医を育てることが、教室の臨床、研究、そして教育活動を発展させ、さらには北海道の地域医療の活性化と日本の外科医療の発展につながると確信しています。

今後もご指導をいただけますようよろしくお願ひ申しあげます。



竹政伊知朗先生 ご略歴

1993年3月	大阪医科大学医学部卒業
4月	大阪大学医学部付属病院（第2外科）研修医
1994年6月	国立大阪病院 外科 医員
1997年2月	秋田赤十字病院 消化器センター
6月	国立大阪病院 外科 医員
1998年6月	大阪大学大学院医学系研究科 病態制御外科 大学院生
1999年4月	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス科 特別研究員
2002年3月	大阪大学大学院 医学系研究科 博士課程 修了
2002年4月	法務技官医師
2004年6月	大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科 助手（助教）
2010年4月	大阪大学大学院医学系研究科 消化器内視鏡センター 副センター長
2011年4月	大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科 学内講師
2014年4月	大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科 診療局長
2015年4月	大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科 講師 千里金蘭大学 客員教授
11月	札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科 教授

〔旭区支部長〕

前支部長 上出茂夫先生（学20期）
↓
新支部長 神吉秀一先生（学21期）

役員交代

受章・表彰報告 秋の叙勲・表彰

下記の先生方の受章・表彰が判明いたしました。母校同窓会として慶事ありますので、ここにご報告させていただきます。

平成 28 年 秋の叙勲
瑞宝中綬章 教育研究功労
島田真久先生（学14期）
旭日双光章 保健衛生功労
武井公雄先生（学18期）

厚生労働大臣感謝状
臓器移植推進功労者
日下守先生（学40期）

各地で喜びの受章・受賞等あれば、事務局宛に新聞掲載記事などをお送りください。
また、お祝いの言葉、喜びの声も是非お寄せください。本誌にて広く紹介させていただきます。

受賞報告 Best Scientific Poster 賞

学会名

10th World Cleft Lip, Palate & Craniofacial Congress International Cleft Lip and Palate Foundation

受賞名

Best Scientific Poster in the category of Craniofacial Surgery and Research

文責／重村友香（学57期）

こんにちは、形成外科の重村友香です。このたび口蓋裂ならびに頭蓋顔面外科の国際学会で“Crouzon 病患者に対する顔面骨切り延長術における 3D カメラを用いた新しい術後評価方法”について Poster 発表させて頂きましたところ、Best Scientific Poster 賞を受賞することができたのでこの場をお借りしてご報告させていただきます。本受賞は当科で行っている新たな方法が国際的に評価されたという非常に名誉な事であり、感極まる思いです。今後も当科の新たな試みを世界に発信し、当科の更なる繁栄に繋げていきたいと思います。



New Year Special Interview

新専門医制度に対する大阪医大の取り組み

医療プロフェッショナル支援室室長
星賀正明先生(学 34 期) インタビュー

新専門医制度の現状

専門医制度に大きな変革が訪れようとしています。現行の専門医は、各領域の学会が独自の基準で認定してきました。各領域の専門医に統一の基準を設け、新たに立ち上げた「日本専門医機構」(以下、専門医機構)という第三者機関で認定していく、というのが変革の骨子です。「専門医制度整備基準」という基準に則って、各領域で専門医養成のためのプログラムを作成し、それを専門医機構が認定し、初期研修 2 年目の方々に提示する、というステップが予定されていました。当初は、平成 29 年度から開始の予定でしたが、ご存知の通り延期になりました。しかし、各領域のプログラムを作成するというステップはほぼ完成に近い状態まで行われていて、全国で合計 2,000~3,000 のプログラム数になったようです。このプログラムとは、例えば大阪医大附属病院が基幹施設となって、いくつかの連携施設と共に専門医養成のプログラムを構築するものです。私も当院の内科専門医プログラム構築に関わりましたが、連携施設が 30 病院ぐらいあって、各病院に大変なご苦労をおかけしました。その新プログラムを作る過程で、今までのプログラムの見直しが各学会でなされました。その結果として、新専門医制度が一斉に開始するのは延期されましたが、平成 29 年度から新しいプログラムに変えましょう、という領域がいくつか出てきたというのが現状です。

具体的な各領域(学会)の対応は、医療プロフェッショナル支援室のホームページにまとめて update していますので、ご覧ください。この新専門医制度になって、最も大きく変わると予想されている内科専門医制度は、平成 29 年度は前年度と同じです。新専門医制度の開始がいつになるか、については、一応平成 30 年度が予定されています。しかし、一度撤回された「専門医制度整備基準」が未定で、

専門医機構での策定が平成 28 年 12 月 16 日以降になることが確実な状況です。今後の事態の推移を注意深く追っかける必要があります。

浮かび上がる問題点

新専門医制度が延期になった問題点として、1) 都市部のプログラムに集中し地域医療に悪影響をもたらす危惧、2) 基本 19 領域における複数の専門医取得(例えば救急と脳神経外科など、いわゆるダブルボード)が可能か、3) 内科に代表される基本専門医とサブスペシャルティ専門医(例えば内科専門医と循環器専門医)の研修時期の問題、などが挙げられます。専門研修プログラムを構築する際、教育資源として症例数や指導医数が、どの程度あるかという点が重要になってきます。都市部は患者数および指導医数が多いので、プログラムを構築しやすい。そうすると専門医をめざす若い医師(今回この方々を「専攻医」と呼称することが決まっています)は都市部に集中します。逆に地方では、整備基準を満たせず、従来行ってきた専門医研修が行えないと危ぶまれています。現在、この基準を緩和しようという動きが出てきているようです。但し、都市部においては、プログラムの募集定員が厳しく制限される可能性があります。

研修医と学生の不安

新専門医制度が本格実施されるようになると、若い医師のキャリア形成が大きく変わります。専門医をめざす若い医師は、研修 2 年目に全領域・全国で 2,000~3,000 あるプログラムの中から、まず 1 つだけを選ぶとされています。ところが、プログラムには定員があるわけです。希望者が定員を超えると選抜になる。10 人の定員で 20 人希望者があれば 10 人は希望する機関での専門研修が開始できないといった事態が発生することになります。1 次選考で決まらなかった人は 2 次選考に回りますが、その時点で全国のプログラムの中で空いているところしか選べません。将来のキャリアを考える上で、大きな決断を迫られることになります。

平成 16 年度の研修必修化開始以降、初期研修先の多様性は目を見張るものがあります。しかし、新専門医制度が本格実施されると、初期研修と専門研修は密接に関連してきます。研修先を選ぶ段階で、専門研修を含めたキャリア形成をより具体的に考えなければいけなくなると思います。大きな変化が予想され、研修医や学生さんから不安の声をよく聞きます。最新の確かな情報をわかりやすく伝えて、キャリア形成のお手伝いになればと念じています。

専門医の更新も変わります

これまで、新しく専門医取得をめざす若い医師について述べてきましたが、既に専門医を取得されている先生の更新制度も変わると予想されます。認定期間(原則 5 年)終了時の更新条件は、各学会に任せられていましたが、ここにも統一の基準を設けようとする動きがあります。一部既に開始されているようですが、「医療安全」「感染」「倫理」の 3 分野において講習を受け、専門医更新に必要な単位を取得します。学術集会のこれらの講習会では、長蛇の列ができる会場に入りきれず単位が受けられなかったようなニュースを

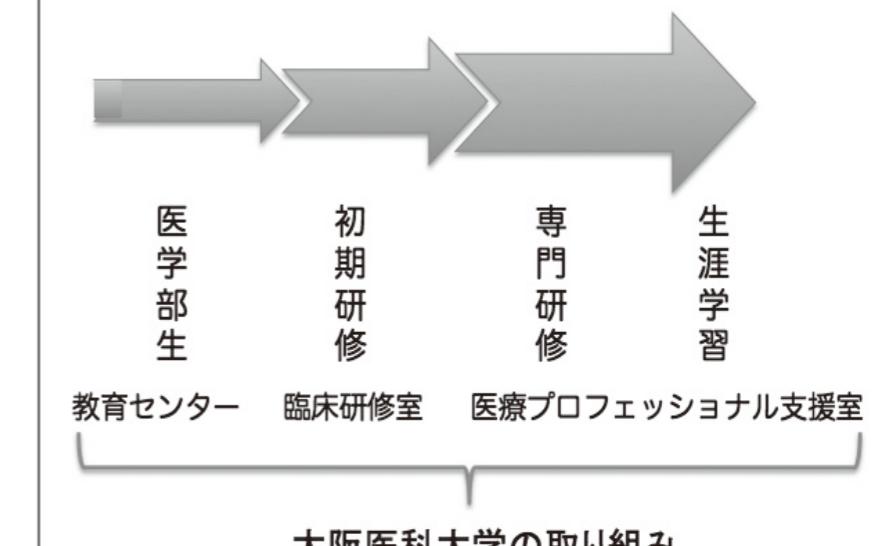
耳にします。大阪医大では、このような 3 分野の講習会を開催するべく準備に入っています。仁泉会会員の先生方に利便性が高いように工夫したいと思っています。

医療プロフェッショナル支援室の役割

医学部学生→初期研修→専門研修→生涯学習と続くシームレスな教育のサポート体制を構築することが、医師のキャリア形成に関して極めて重要なと考えています(図)。大阪医大では、そのサポート体制として、教育センター(医学部学生)→臨床研修室(初期研修)→医療プロフェッショナル支援室(専門研修)があります。医療プロフェッショナル支援室では、1) 専門医育成、2) 生涯学習、3) 女性医師を中心とした復職支援などに、全力を傾けてサポートしていくことが使命と考えています。

新専門医制度に関しては、当院は 19 の全領域で基幹施設となる予定で、情報収集には絶好の環境です。仁泉会の会員の方々には、本学在籍の方のみならず、数多くの連携施設、医師会において、専門医育成のために大きな力と励ましをいただき、心から感謝しております。新専門医制度はまだまだ混沌とした部分が多いですが、契機と捉えて母校の発展に尽力していきたいと思います。ぜひ、力を貸してください。

医師のキャリア形成



学会報告

第48回日本医学教育学会大会の報告

文責／第48回日本医学教育学会大会実行委員長
医学教育センター長 河田了（学33期）

第48回日本医学教育学会大会は2016年7月29日（金）、30日（土）、大阪医科大学において大槻勝紀大会長のもとに開催されました。本大会は各医科大学・医学部が持ちまわりで年に1回開催され、48年目に本学が担当するということになりました。会場は本学医学部および看護学部の講堂を中心に、7つの会場とポスター会場としました。一般演題については、口演演題が296題、ポスター演題が115題、インターナショナルセッションが42題、学生ポスターセッションが35題、総数488題という多数の投稿がありました。

参加者は猛暑にも関わらず1,109名（一般参加者926名、研修医6名、学生・その他177名）の多数のご参加をいただきました。海外からの参加者も37名を数えました。医学部と看護学部は道を隔てており、猛暑のなか会場内移動がやや大変でしたが、十分な空調と飲料水を用意し、幸い会期中熱中症を訴えた方は皆無でした。参加頂いた先生方には学内の各会場が最初は把握しにくいのではないかと危惧しましたが、ポケットプログラムと地図を配布し大きな混乱がなく安堵いたしました。以下、内容についてご紹介いたします。

基調テーマ：Originality of each university in meeting the global standard of medical education

医学教育において今国際化という大きな波が押し寄せています。多くの大学は国際認証、分野別評価の対応に追われています。それに加えて日常の医学教育に対する医師、教員の負担は増加する一方であり、国家試験対策さえ行うのが当たり前の時代になっています。さらには平成16年に新研修医制度が開始されて以来、多くの大学では人手不足に悩んでい

ます。教育センター専任教員が十分に配属されている大学は少数と思われ、本学を含めて多くの業務をボランティア精神でどうにか乗り切っているのが現状ではないでしょうか。そのような中で国際認証や分野別評価の仕事が追加されました。医学教育が深化していくなかで、基幹部分の共通性は最低限求められる事項と考えられます。しかし、それ以外の分野は大学の独自性を發揮することが大学の生き残りに必要であり、そうでない大学は早晚淘汰されるでしょう。このような基調テーマを掲げて、大会のシンポジウムを企画いたしました。

海外招請講演

招請講演1として世界医学教育連盟（WFME）のpresidentであるDavid Gordon先生が、「Preserve the good: maintaining quality at a time of growth in medical school numbers」と題して、招請講演2としてStanford UniversityのKelley Skeff先生が「Medical teaching: a complex world of opportunity」と題して講演されました。共に非常にわかり易い講演であり質疑応答も活発に行われました。また日韓医学教育学会交流招聘講演では、Hye-Rin Roh (Inje University) 先生のご講演を拝聴いたしました。



世界医学連盟（WMFME）president
David Gordon先生



大会終了後の全体写真

名誉会長講演

本大会も聖路加国際病院名誉院長でいらっしゃる日野原重明先生に来ていただきました。「ふたたびオスラー先生に学ぶ」と題して、みっちり1時間ご講演を頂きました。オスラー先生に学ぶとされていますが、ご自身のご経験と信念を語っておられるとのように思われました。104歳でおられるとはとても思えないしっかりした語り口で、ほぼ満員であった聴衆に深い感銘を与えていただきました。



聖路加国際病院名誉院長 日野原重明先生

基調講演・特別講演

基調講演には愛媛大学の小林直人先生に「原点に還る～医学教育者に求められること～」と題して講演をいただきました。また特別講演として、福島県立医科大学の石川和信先生に「教育リソースの有効活用と総合的臨床実践力の評価」と題して講演をいただきましたと題して講演をいただきました。また特別講演として、福島県立医科大学の石川和信先生に「教育リソースの有効活用と総合的臨床実践力の評価」と題して講演をいただきました

シンポジウム、パネルディスカッション

学会の各委員会から頂戴したテーマを中心に、15のシンポジウム、4つのパネルディスカッションを行いました。非常にタイムリーなかつ興味深い演題が多く、各会場は「閑散」としていたところはほとんどありませんでした。今後の医学教育、また本学会の方向性を示す内容であったと思います。タイムスケジュールの関係で、企画演題そのものが重なったり、また一般演題と並行で行わざるを得なったことをお詫び申し上げます。多数の企画を提供

頂きました、本学会各委員会の委員長ならびに委員の先生方に改めまして感謝申し上げます。

サテライト企画

本大会では、大会前日に行われたプレコングレスワークショップ、また大会翌日に行われたシムリンピックおおさか 2016 ならびに APME-Net 国際リサーチミーティングをサテライト企画と位置付けることを理事会でご承認いただきました。プレコングレスワークショップはシンポと同様、学会の各委員会から 3 つのテーマを頂戴いたしました。大会のシンポやパネルとは異なる切り口のテーマであり、どの会場も熱心な参加者であふれています。シムリンピックは今年で 3 回目を迎え、16 校の参加がありました。朝一番から若い熱気に溢れ、次世代を担う医学生が非常に頼もしく見えました。

その他

企業協賛による 6 つのランチョンセミナー、2 つのイブニングセミナーを催し、いずれもほぼ定員いっぱいでした。また 32 社の企業展示のほか、多くの広告・寄付協賛をいただきました。学会開催にはそれなりの費用がかかり、他方企業にとって自社の宣伝・広告とは相いれない学会だけに、難渋した面もありましたが、「社会貢献」という意味でお願いして多くの企業の協賛をいただくことができました。

本学にとって、参加者が 1,000 名を超える全国学会を学内を会場として行うのは開学以来初めてのことであり、学内外の多くの先生方にご尽力いただきました。また多大なご協力をいただきました仁泉会の先生方に厚く御礼申し上げます。

ご投稿のお願い

会員相互および母校とのコミュニケーションや情報交換の場として「仁泉会ニュース」を引き続き利用していただきたいと思っています。会員の先生方より本誌に対する忌憚のないご意見をいただき、同窓会の活動をさらに充実させていきたいと考えています。下記の要領にて、多くの会員皆様からの投稿をお願いします。

- 支部会、クラス会、趣味の集会などの案内や報告
- 「仁泉ひろば」のコーナー
- 研究論文の要約（以前に他誌に投稿された内容でも結構です）
- 随想、紀行、写真、絵画、俳句、短歌、川柳などの趣味や特技
- 紹介したい店、場所、物など
- 本誌に取り上げて欲しい話題
字数には制限は設けません。葉書 1 枚、便箋 1 枚でも結構です。
- 広告に関して

会員自身が出される広告は現在 100 字程度までは無料です。内容は、人材募集、開業場所の紹介、医院承継、ブライダル、趣味の発表会の案内などです。詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

（内容により有料の場合があります）

事務局編集係

支部だより ● ● ●

平成 28 年度 大阪府連学術講演会のご報告

文責／村木宏要（学 27 期）

平成 28 年 11 月 12 日、ホテルグランヴィア大阪 20 階「孔雀の間」において平成 28 年度の仁泉会大阪府支部連合会学術講演会が開催されました。興和創薬株式会社からの情報提供が行われた後、中透先生（学 25 期）の司会で開会されました。佐藤公彦府連会長（学 12 期）の挨拶に続き、大阪医科大学仁泉会理事長 河野公一先生（学 21 期）によるご来賓挨拶の後、霜野医院院長 霜野良一先生（学 28 期）が座長で講演会が始まりました。



仁泉会理事長 河野公一先生



大阪府連会長 佐藤公彦先生

特別講演：今再考する糖尿病合併脂質異常症の Patient-Centered Approach

東邦大学 内科学教授 弘世貴久先生（学 34 期）を講師にお招きし、お話しいただきました。抄録を参照しその講演内容を紹介します。

糖尿病患者を診ているなかで、脂質の専門医がこれだ！とした治療方針に対して、本当にすべて正しいかと疑問を持つ時があります。今日の話のきっかけは、E B M (Evidence based medicine) です。医師の経験や主観だけではなく、根拠のあるデータに基づいて治療を行なおうと言う取り組みです。E B M を基にすると治療のばらつきが生じにくく、期待値の高い治療ができます

ところが、A D A (アメリカ糖尿病学会) と E A S D (欧州糖尿病学会) で数年前に Patient Centered-Approach や Patient-Centerd-Care という考え方方が提唱された。一人一人はその治療に対しての反応性は異なる。患者さんに治療を選択していただいて、患者さんが治療の成功を判断するという考え方です。

E B M は素晴らしいのですが、E B M だけに拘った診療をするのではなく、患者さんの反応性の違いに着目し治療すること (patient-centered approach) について評価したいと思います。

現在の脂質異常症の治療はエビデンスが豊富なスタチンが多く処方されており、多くの大規模臨床試験の結果からスタチンによるイベント抑制効果が認められています。スタチンの高用量を用いて、LDL-C を積極的に下げることでさらなるイベント抑制効果も確認されています。しかしながら、スタチンで LDL-C をコントロールしているにも関わらず、依然として心血管イベントのリスクが残っています。LDL-C 以外の残存リスクであると言わされている T G 、 H D L に対する治療だ。

高 T G 血症の治療薬としてフィブロート製剤があるが、この製剤はスタチンと比較してエビデンスが乏しく、大規模臨床試験のプライマリーエンドポイントでイベント抑制効果が証明されていないのが現状である。一方、フィブラー



講師 弘世貴久先生

ト製剤の大規模臨床試験の高 TG、低 HDL-C の患者を対象としたサブ解析ではイベントを抑制が認められている結果も多い。

糖尿病患者に合併する脂質異常症は、H a 型、H b 型、IV 型が多いことが知られています。自分自身の経験上、一定の割合で高 TG、低 HDL-C が認められます。H b 型にフィブラーントを使用すると TG 低下、HDL-C 上昇によって脂質プロファイルが改善するだけに留まらず LDL-C が低下する事に気付いていた。そこでベザフィブラーントの phaseIV データを再解析したところ、TG の改善に加えて LDL-C 160mg/dL 以上の H b 型の症例に対して LDL-C 120mg/dL 以下に改善できる症例が約 18% 存在しました。これまでのエビデンスに従って治療した場合 H b 型は疑いなくスタチンが使用されたがこの一辺倒の使用法に対しこちらのデータはフィブラーントとの使い分けを再考すべきと思います。

衝撃的だった症例としてフィブラーントを処方して、低血糖を起こした症例をあげられ、フィブラーント 1 剤にて耐糖能の改善に加え糖尿病に合併しやすい H b 型脂質異常症の脂質プロファイル（高 LDL-C・高 TG・低 HDL-C）を改善する可能性を患者によって持っているとされた。

結局普段の診療のなかでは EBM だけに拘った診療をするのではなく、自身の経験を試しながら、それぞれの患者にとって最適な治療を探ることが良き臨床家に期待される手腕である。と結ばれた。

講演会後の懇親会は、講師の先生にもご参加いただき、大西洋一郎副会長（学 25 期）の司会 藤本正三先生（学 2 期）による乾杯のご発声で始まりました。講師の先生を囲み、さらに詳しいお話をいただいたり、会員同士の近況に話が尽きず、和気藹々とした雰囲気で時が経ちました。最後に、大西洋一郎副会長（学 25 期）の閉会の辞で懇親会はお開きとなりました。



座長 霜野良一先生



写真ご投稿 「高槻市民憲章」西村 保先生（学 4 期）

編集部より

写真募集のお知らせ

誌面を彩るお写真も新たに募集します。季節の風景、お住まいの地域の情緒ある街並みなどをお送りください。なお、掲載時期及び掲載の有無に関してはご一任くださいますようお願い致します。

支部だより ● ● ●

平成 28 年度仁泉会住吉・住之江支部総会および懇親会の報告

文責／霜野良一（学 28 期）

平成 28 年 10 月 15 日（土）大阪難波の「鳥よし本店」にて午後 6 時 30 分より仁泉会住吉・住之江支部総会および懇親会が開催され、卒寿（90 歳）ながら現役で頑張っておられる大野直樹先生（学 2 期）をはじめ 13 名の先生方の出席がありました。総会は、私 霜野良一（学 28 期支部長）より大阪薬科大学との合併、医師国家試験の成績や大阪府連支部長会の報告後、協議事項として大阪医大創立 90 周年記念事業への募金について、支部会より 1 人 5 万円（23 名計 115 万円）を寄付することが全員一致で承認されました。その後、出席されていない先生方に手紙を送りましたが、異議はありませんでした。ついで李鐘甲先生（学 31 期 会計）から会計報告をしていただいた後、7 時より南大阪病院院長の柿本祥太郎先生（学 24 期）の乾杯の発声で懇親会が始まりました。7 時半頃記念写真を撮り、皆おいしい料理とお酒が進んだ頃、各自の近況や趣味の話を一人ずつしていただきました。



た。私が最近韓流ドラマにはまっているという話をしたところ、その後の先生が何人か韓国にまつわる話をされ大変盛り上がりました。濱崎憲夫先生（学 42 期）からはこの文章に書けないようななかくし芸（毛？）の話があり、一同大爆笑となりました。最後は阪和病院院长の増井義一先生（学 22 期）に締めとしてちっとした話ををしていただき、9 時 30 分上品に会はお開きとなりました。

また、住吉・住之江区で開業・勤務されている先生方で、本会の連絡が届いていない場合は、霜野の方までご連絡いただければ幸いと存じます。何卒宜しくお願ひ申し上げます。

連絡先

〒558-0042 住吉区殿辻 1-7-22 霜野医院
TEL・FAX 06-4700-9058

当日の出席者は以下の通りであります。
(敬称略)

大野直樹（学 2 期）	磯田幸太郎（学 22 期）
増井義一（学 22 期）	宮井元伸（学 23 期）
柿本祥太郎（学 24 期）	宮越一穂（学 25 期）
板橋司（学 27 期）	霜野良一（学 28 期）
李鐘甲（学 31 期）	岩垣明隆（学 34 期）
村上康弘（学 34 期）	松田茂樹（学 41 期）
濱崎憲夫（学 42 期）	

支部だより●●●

仁泉会阿倍野支部総会と懇親会の報告

文責／福本敏子（学 24 期）

平成 28 年 11 月 5 日（土）帝国ホテル大阪『撫子の間』にて、平成 28 年度の仁泉会阿倍野支部総会を開催し 20 名が集いました。総会の議事に続き、今回は大槻勝紀学長のご講演の後、岡 民子先生（学 38 期）のフルートコンサートと懇親会を開催いたしました。

総会は藤本正三先生のご挨拶から始まりましたが、「阿倍野支部の団結と発展を期待する」と述べられ、その後の議事も無事に承認されました。

大槻勝紀学長は『大阪医科大学のブランド力向上を目指して』と題してご講演くださいました。大阪医科大学の建学の精神である『医誠仁術』すなわち「医学教育」「医学教育」「実地医療」



後列左より 熊谷広治（学 38 期）伊賀千洋（学 29 期）江村成就（学 39 期）岡 民子（学 38 期）岡 成樹（学 35 期）
中野久美子（学 34 期）坂井昌弘（学 43 期）森田利江（学 28 期）二村吉継（学 49 期）中野晋吾（学 34 期）
宮本裕之（学 51 期）成山仁（学 39 期）蓬莱亮斗（学 62 期）
前列左より 福本敏子（学 24 期）文珠敏郎（学 11 期）高木 力（学 10 期）大槻勝紀学長（学 27 期）藤本正三（学 2 期）
前田隆義（学 27 期）森田真照（学 28 期） 敬称略

「国際化」に基づく教育に立ちかえり、さらなる飛躍を目指して日々、力を尽くしておられます。その結果、国家試験合格率の向上、科研費獲得率の上昇、私立大学偏差値ランキングの上昇を実現されました。また、国際化という点では、ハワイ、中国、タイ、韓国、ロシア、台湾、シンガポール、ベトナムと多くの医学部と協定を結んでおられます。今後、各種先端医療にも関わっていかれるとのことですので、同窓生として、できる限りの支援をさせていただきたいとの思いを参加者全員で共有いたしました。

次に、岡 民子先生のフルートコンサートを開催しましたが、岡先生のお人柄そのものの、優しい心に染み入るようなフルートの音色に会場中、日頃の仕事のストレスも忘れ、至福の時間を過ごさせていただきました。岡先生は中学生の頃からレッスンを続けておられるそうですが、お忙しい仕事をなさりながらの努力の賜物に参加者全員、感心しきりでした。

コンサートに続き、懇親会を開催しましたが、高木 力先生の乾杯のご発声の後、帝国ホテル大阪ご自慢のローストビーフを組み合わせた和

洋折衷料理を召し上がっていただきながら、和気藹々とした時間を過ごすことができました。また、昨年体調をくずしておられた文珠敏郎先生は無事に仕事に復帰され、その上、ご自身の音声学の集大成ともいえる本を出版されたと述べられ参加者全員、安堵いたしました。また、今回、新進気鋭の蓬莱裕之先生（学 51 期）が仲間に加わっていただき、頼もしい限りです。

今回も『講演会、コンサート、懇親会』と『勉強して、素敵な音楽を鑑賞し、おいしい料理を楽しんで』と、一石三鳥の会を開催することができました。

阿倍野区で開業、勤務の方以外に阿倍野区在住の同窓生も大歓迎ですので、阿倍野支部に入会希望の方は、ご連絡をお待ちしています。

出席者一覧（敬称略）

ご来賓 大槻勝紀学長（学 27 期）
藤本正三（学 2 期）高木 力（学 10 期）
文珠敏郎（学 11 期）福本敏子（学 24 期）
前田隆義（学 27 期）森田真照（学 28 期）
森田利江（学 28 期）伊賀千洋（学 29 期）
中野晋吾（学 34 期）中野久美子（学 34 期）
岡 成樹（学 35 期）岡 民子（学 38 期）
熊谷広治（学 38 期）成山仁（学 39 期）
江村成就（学 39 期）坂井昌弘（学 43 期）
二村吉継（学 49 期）宮本裕之（学 51 期）
蓬莱亮斗（学 62 期）



岡 民子先生のフルート演奏



大槻勝紀学長



藤本正三先生

小さな音楽会♪

曲目

1. ポルト・デ・ガリニヤス
2. ブレジエイロ
3. アース

フルート：岡 民子
ピアノ：三宅奈穂美

支部だより●●●

仁泉会河内長野支部交流会開催

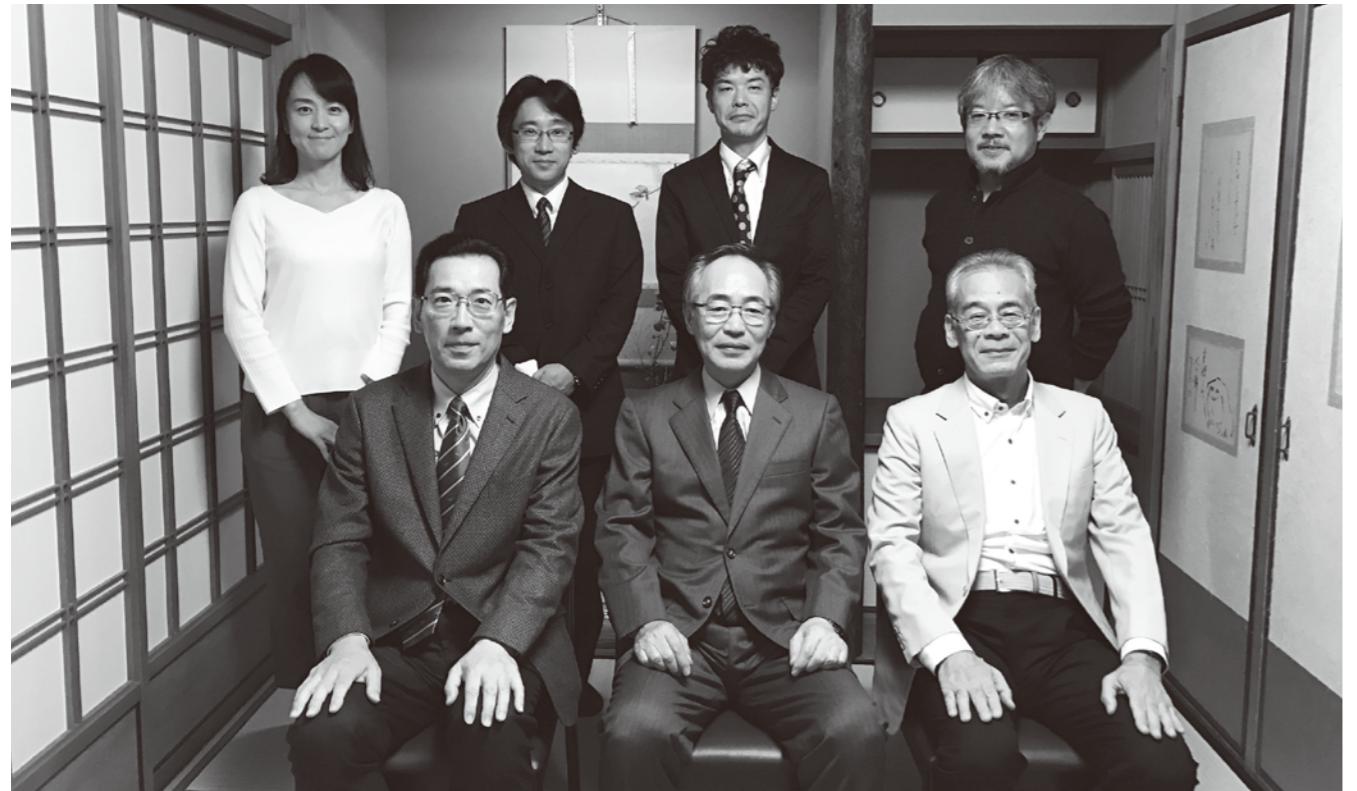
文責／櫻井幹士（学 45 期）

すっかり寒くなってまいりましたが、皆様風邪などひかれず益々ご活躍のことと存じます。さて去る 10 月 22 日、仁泉会河内長野支部の交流会を河内長野の老舗料亭「喜一」にて開催いたしました。

河内長野支部は、平成 2 年に高 8 期の澤田孝明先生が引退されてから休会状態になっておりましたが、このたび学 22 期の村田貞史先生のご発声により 26 年ぶりに活動を再開させてい

ただくこととなりました。

今回ご参加いただいた先生方は、村田先生をはじめ学 26 期の濱田宏先生、学 28 期の齊藤治先生、学 44 期の田中啓子先生、同じく学 44 期の追矢秀人先生、学 47 期の江富朋彦先生、そして私、学 45 期の櫻井幹士の 7 名でした。会は自己紹介を経て支部長選任を行い、満場一致で村田貞史先生にお引き受け頂くことになりました。その後美味しい食事を頂きながら、大学時代の懐かしい話題で盛り上がり、終始和やかなムードで意見交換が行われました。勤務医 4 名、開業医 3 名の小さな集まりからのスタートですが、本学から離れた田舎町でこれからも力を合わせて地域医療に貢献してまいりたいと思います。仁泉会の皆様方には今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



参加者：村田貞史（学 22 期／岡記念病院）濱田 宏（学 26 期／澤田病院）齊藤 治（学 28 期／青山第二病院）
追矢秀人（学 44 期／追矢クリニック）田中啓子（学 44 期／清恵会病院）櫻井幹士（学 45 期／櫻井耳鼻咽喉科）
江富朋彦（学 47 期／江富眼科） 敬称略

クラス会だより

平成 28 年度 学 6 期 親西会総会

文責／塘 二郎（学 6 期）

さる 10 月 8 日（土）、親西会総会が思い出の地高槻摂津峡の山水館で開催された。会員のほとんどが 85 歳を越えたので今回をもって最終回とする旨の案内を出したが、残念ながら参加者は思いの外少なく、いささか寂しい総会となつた。

午後 4 時 30 分、送迎バスで全員が到着と思いきや I 君の顔が見えず、家へ電話したところすっかり失念していた由、やむなく 9 名での開催となつた。我々が学生時代、今から 60 年以上前のことだが当時の山水館はひなびた小さな旅館であったが、現在は 5 階建ての立派な温泉旅館になっており、大浴場や露天風呂もなかなかのものであった。

午後 6 時すぎ、名物のキジ鍋で会食が始まる。開会にあたり先ず物故会員に対する黙祷を捧げた。我々のクラスは現在会員 39 名に対し物故会員は 51 名を数える。特に今までの親西会に殆ど皆勤であった加藤宗男君は 1 ヶ月前の 9 月 2 日に亡くなつており、さぞかし無念であったろう。その後、世話人から母校の現況、大阪薬

科大学、高槻中学校、高等学校との法人合併や大阪医科大学の初めての分院として三島南病院が誕生したこと、病院の西側に地上 6 階地下 1 階の中央手術棟が本年 3 月に竣工したこと等が報告された後、お互いの健康を祈念し最年長の堤君の音頭で乾杯した。その後は大いに飲み、近況を語り合い予定の 3 時間はあつという間に過ぎてしまったが、本当に楽しいひとときであった。

翌朝、日帰りの人がいたので 5 名となつたが、ゆっくり温泉に入り朝食。10 時 30 分過ぎ、山水館に別れを告げ母校に向かう。仁泉会事務局の天野さんの案内で新しく完成した中央手術棟を見学した。残念ながら休日であったため手術室、特にアンギオハイブリッド室などは見ることができなかつたが、またの機会があるだろうということで約 1 時間の見学は終了。今後は、有志で食事会などで旧交を暖める時間を作ろうということで全員が賛同し散会した。

休日にもかかわらず、我々のために案内の労を取つて戴いた仁泉会事務局の天野氏にこの紙面を借りて深謝いたします。

なお、今回の親西会総会をもちまして最終回としましたので、今までプールされていました親西会基金 185,000 円は全額仁泉会本部に寄付致たく思いますので、何卒ご了承いただきましようお願い申し上げます。



前列 左から
陰山 金澤
鈴木 日高
下山 吉原
堤
後列 左から
塘 鈴木
笠川 堤

クラス会だより

八起会(学部八期 昭和34年卒)開催

文責／枠岡 進（学8期）

「八起会」は昭和34年卒（学部八期）の同級生の会で、その語源は学部八期の「八」と八期の「期」を七転び八起きの「起」に置き換えて名付けられています。命名者は定かではありませんが、多分、クラス評議員として活躍してくれていた故岡田 宏君ではなかったかと思っています。

八起会会員は、当初、留年者3人を含め64人でしたが、24名の物故者がおられますので、全会員は40人となっています。

八起会総会は、毎年、11月の第二土曜日に開催することに決まっています。開催地は4～5年に一回は高槻、その他の年は大阪南、大阪北、神戸、京都、金沢、奈良等に在住している会員が当番幹事となり順番に開催しています。



前列左より 宮本一夫人 宮本一 枠岡進 町塚昭 町塚夫人
後列左より 島田瑞夫 江村正信 茂山虎雄 野澤眞澄 藤田邦彦 西川雄之助 松田宗英 藤田義昭

番を開催しています。過去には、滋賀、岡山、名古屋、長崎、関東地方に住んでいる会員が幹事になって、それぞれの地での開催もありました。

今回は、平成28年11月12日に奈良では超一流と目されている奈良ホテルで行いました。会員全員が平均寿命をはるかに超え、ご自身の病気や奥様の体調不良等により参加者は年々減り、今回の参加者は会員11名、奥様2名の計13人と云う淋しい会でした。しかし、全員元気に一年ぶりの再会を楽しみました。参加者は江村正信、茂山虎雄、島田瑞夫、西川雄之助、野澤眞澄、藤田邦彦、藤田義昭、枠岡進、町塚昭、町塚夫人、松田宗英、宮本一、宮本夫人（敬称略）

先ず、物故者に対する黙祷を行い、次いで幹事の枠岡の司会により、今後の八起会総会のありかたを検討したのち次回開催地は京都に決まりました。遠方（金澤）より参加してくれた藤田邦彦君の乾杯発声で宴会が始まりました。ユニークな自己紹介等を交えて総会はあつという

間に経過し、仁泉会本部より配布された校歌のCDを伴奏にして校歌斎唱を行いました。最後に、久しぶりに参加してくれた松田宗英君の日本人のルーツに関する突拍子も無い閉会の辞でお別れとなりました。

宿泊者は6人でしたが、藤田邦彦君を除く町塚昭君夫妻、宮本一君夫妻、枠岡進の5人で、翌日、法隆寺・中宮寺拝観後、昼食を共にして散会したことを付記しておきます。

八起会会員の皆様

次回の八起会は町塚君を始めとした京都在住者が幹事で、京都駅に隣接するホテルグランヴィアで、平成29年11月11日（土）に開催されますので、可能な限りご参加ください。

TOPICS

臨床研修マッチング中間結果で大阪医大が5位のランクイン！

医師臨床研修マッチング協議会による「医師臨床研修マッチング」の中間結果が昨年9月23日に公表されました。大阪医大は希望者数が多かった大学病院のランキングで5位となり、昨年度の9位からランクアップしました。

臨床研修マッチングの中間結果で1位希望者数が多かった大学病院
(上位10病院を抜粋、昨年順位は中間結果時点)

順位	昨年順位	大学	定員	1位希望者数	充足率 (%)
1	1	東京医科歯科大学	119	104	87.4
2	2	東京大学	127	93	73.2
3	3	京都大学	81	69	85.2
4	7	筑波大学	90	68	75.6
5	9	大阪医科大学	55	66	120
6	8	順天堂大学	53	59	111.3
7	4	和歌山県立医科大学	81	56	69.1
8	14	長崎大学	70	53	75.7
8	11	杏林大学	65	53	81.5
8	16	奈良県立医科大学	61	53	86.9

クラス会だより

三三会（学11期 S33年学部入学）

リポーター／田中 陽（学11期）

平成 28 年 11 月 19 日（土）～20（日）鳥取県
皆生温泉、華水亭にて開催しました。

平成 21 年大山ロイヤル開催以来、二度目の
鳥取県開催。昨年は大阪で開催予定でしたが、
鈴木 哲君の死去などがあり中止。今年も開催
の目途がたたない様子でしたので、旬の松葉蟹
が旨い皆生温泉と虹葉が満喫出来る大山アーク
CC をお勧めしました。

案内はがき郵送は、新評議員の辰見君に分担
して頂き助かりました。梅田から米子迄途中、
上月 PA で休憩しますトイレ付の日交バスで 3
時間半。

参加者（敬称略）は、笠原、定延、辰見、田中 陽、
山口県から田中 宏、中谷、福森、増田の 8 名。

18 時 30 分、開宴前に辰見君から今回の開催
に当たって経緯説明のあと、昨年亡くなられた



後列左より 福森、田中陽、辰見、増田

前列左より 定延、田中宏、中谷、笠原（敬称略）

奥村君、中堀君、鈴木君のご冥福を祈って黙祷
を捧げました。平成 28 年 11 月 21 日現在物故者
27 名。

10 月、倉吉地震で被害を受けた北条ワイナリーを援助？ すべくワインは全てやや甘口の
北条ワインにしました。田中 宏君は相変わらず日本酒党。

ツイン室をシングルユースでのんびり泊って
頂きました。酒代別で土日でもあり、3 万円。

翌朝 7 時半、小雨の中、紅一点の笠原さんに見送られて、7 人が、大山アーク CC（アイフルカップ開催コース）へ向かいました。キャディ付き特別優待券利用 1 万 3 千円。

雨予報でしたが、霧雨程度で気温も 12 度から 20 度にあがり、スタート時には止みました。

しかし、14 時 45 分頃、最終 9 番、増田君が約 40Y からトップしたと思われた 3 打が（ご本人は 8 アイアンで得意のランニングアプローチと申しております）ピンそばに寄せてパーを取ってから俄かに雨が降り出しました。

ただ、霧で大山が拝めなかったのが残念でした。後半、中谷君がカップインした球も取れな

いほどの腰痛に苦しみながらも最後まで続けた根性は、流石ラガーマン、大した男です。お急ぎで一人やくも 24 号 16 時 27 分で帰られました。

ゴルフ参加費 3 千円：賞品は大山ミルクの里のクッキーなど。

表彰会は飲み物 3 種類とミニサンド。



左より 辰見、田中宏、中谷、福森、田中陽、
増田、定延（敬称略）

競技はダブルペリア方式

1 位 辰見 74.2（庭球） 2 位 定延 75.2（卓球）
3 位 田中陽 77.4（野球） 4 位 田中宏 77.4（ラグビー）
5 位 福森 80.6（ラグビー） 6 位 増田 83.2（庭球） 7 位 中谷 102（ラグビー）

ニアピン 定延 ×2 増田 田中陽

※（）内は部活。男性参加者は全員部活



日交バス発着点米子駅にて。

左より、茨木市 辰見宣夫、貝塚市 笠原春生
現地米子送迎担当 田中 陽

クラス会だより

平成 28 年度 46 会報告

文責／安藤嗣彦（46 会代表、学 20 期）

去る 10 月 15 日（土）、6 年ぶりの 46 会が大阪の新阪急ホテルで開催されましたので報告いたします。遠方からは、山梨県より、今井秀人君、神奈川県からは、新妻 忠君、山口県からは、渡辺恵幸君が馳せ参じてくれました。本来ならば、前回（平成 22 年）より 2 年後に神戸で開催予定でしたが、諸般の事情で延び延びとなり、会員の皆様にご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫びいたします。参加者は 33 名の予定が、橋場信之君が急なお産があり、江原一彦君は風邪で欠席となりました。総会では、私が仁泉会の理事の立場から、母校の現状（大阪薬大との法人合併、新手術棟の完成、BNCT 治療棟建設の着工等）を説明しました。その後、平

成 22 年 12 月に亡くなられた本田克二君に默とうをささげました。議事では、住所変更、災害時の安否確認、会員の不幸発生時等については、まず仁泉会の本部に連絡し、その後、クラス会代表が対応することとなりました。この様な結論に至った経緯としては、クラスのかなりの会員が E-mail を扱い慣れていないためでした。46 会ゴルフコンペにつきましては、塩路世話人より、最近は参加者が少なくて会が成立しないが、人数がそろえば再開する旨との発言でした。前回の会計報告並びに現在の残高が栗本、黒川両君より報告され、了解されました。次回開催地ならびに幹事は、安藤が神戸でお世話することとなりました。集合写真の撮影後、懇親会となりました。クラス会仁泉会評議員の黒川君の乾杯の音頭に続き、宴がはじまりました。個人の近況報告になりますと、46 会独特のヤジも入り、一人 3 分制限を軽くオーバーする強者も続出しました。最後に、学歌を全員で齊唱し、栗本君の、2 年後に神戸で会いましょうと

の締めの言葉で閉会しました。2 次会は、ホテルのバーで行われましたが、ほぼ全員が参加し、



参加者（敬称略）：安藤嗣彦 池田 良 石上義樹 稲掛英男 今井秀人 奥村正治 尾崎信之
上出茂夫 木下和之 倉重哲也 栗本一孝 黒川彰夫 塩路清一 田伏俊作 寺尾直道 名方潔
中西一絵 中野和子 長尾 光 南谷広重 新妻 忠 西野泰典 長谷川博之 平野敏行 藤田きみゑ
古川恵三 松本泰仁 村田純子 八木 徹 山崎紘一 渡辺恵幸

クラス会だより

茂松茂人先生大阪府医師会会長就任祝賀会及び学27期生第10回同窓会

文責／上野 豊（学27期）

平成 28 年 10 月 8 日（土）茂松茂人先生大阪府医師会会長就任祝賀会と学 27 期生の第 10 回同窓会が、ウェスティンホテル大阪 1 階ステラマリスにおいて開催されました。天候が不安定で懸念されましたが、何とか切り抜けました。

当日は、仁泉会大阪支部連合会の理事会が午後 3 時よりグランヴィア大阪で開催され、私と村木君が理事として出席しておりました。4 時過ぎに理事会がお開きとなり、午後 6 時 30 分からの同窓会には時間があるなと思っていましたが、村木君と二人で、どうせなら会場に行って

夜遅くまで懇親の場は続きました。

る大槻勝紀君に挨拶をお願いしました。さすがに手慣れたもので、最近の学内的情勢、大学としての将来の展望などを交え、最後には、茂松君の活躍を期待する言葉で締めくくられました。次に、主賓である茂松茂人君の挨拶をしていただきました。現在の医療行政の在り方、我々が置かれている厳しい現状、それに対して大阪府医師会はどのように対処していくか、日本医師会との関係、大阪府医師会が置かれている立場などを説明し、我々の学年は、都道府県の理事、郡市区の医師会長など医師会の役員を多く輩出しており、その人たちと協力し、今後しっかりと会長職を全うしたいと抱負を述べられました。その後、花束の贈呈を行い、懇親会に移りました。まず、乾杯の発声は 10 年間藤井寺市医師会の会長を務め、現在、大阪府社会保険診療報酬支払基金審査委員会の副委員長を務めている、白江敦郎君にお願いしました。

短いスピーチの中で、大阪府医師会が何故日本医師会において強い影響力を持っているのかなどを簡単に述べられた後、乾杯の杯をあげました。その後は、懇談に移りましたが、久しぶりに顔を合わせた人が多く、各々のテーブルやテーブルを移動して話し込む人など、あつとい

う間の二時間でした。

中締めの挨拶は、神経内科教授の木村文治君にお願いしましたが、彼の機転で近況を話したい人はいますかということで、一番遠方から駆けつけてくれた立花正史君が指名され、自分の有床診療所のこと、そこでまだ頑張っていることや、子供のことを話してくれました。この後、集合写真を撮影、ホテルのバーに会場を移し、二次会を行いました。話題は尽きませんでしたが、別れを惜しみつつ 10 時過ぎに解散しました。最後に、この会のセッティングや連絡など忙しい中を色々お手伝いいただきました学長秘書の並田優実さんに深謝申し上げます。

参加者（敬称略 五十音順）

板橋 司	今井 秀	井村俊郎	岩田 隆
植坂俊郎	上野 豊	宇野耕太郎	大槻勝紀
賀来清高	河村 宏	北 祥男	北川 真
木村文治	金 基中	茂松茂人	白江淳郎
末吉公三	立花秀一	立花正史	辰巳昭央
田中真一郎	地寄剛史	中西宣文	野村 裕
橋本 寛	福本仁志	前田隆義	前田眞知子
南川辰夫	向井龍一郎	村木宏要	吉田悌三郎
渡辺 寛	渡辺義博	並田優実	（学長秘書）



2016 10 08

クラス会だより

大阪医科大学 学29期生同窓会報告

文責／森松伸一（学 29 期）

去る 10 月 8 日（土）午後 6 時半から学 29 期生同窓会を神戸市ポートピアホテル地下 1F の「和楽の間」にて開催しました。当日の参加者は 28 名でしたが、まず全員でこれまでの物故者に対して黙祷を捧げ、仁泉会神戸支部長増井裕嗣先生による乾杯に引き続き神戸常盤大学器楽ボランティア部榎谷部長以下 8 名による演奏の中で賑やかに立食パーティーが始まりました。いつもは出席番号順でしたので今回は後ろからの出席番号順に、参加者一人ひとりによる近況報告を行いました。この中で、佐野浩一大阪医科大学薬科大学法人理事・微生物学教室教授による大学の現況報告と近況報告がありました。新しい病院手術棟の竣工や大阪薬科大学との法人合併、高槻中学・高校の男女共学化など、我々の若い頃には考えも及びつかない大学の大き



集合写真（米澤卓実夫人：前列右から 3 人目）

仁泉ひろば

jinsen-park

大阪医大と島根医大での思い出 今昔物語

文責／下山 誠（学 6 期、元島根医科大学学長）

大阪医科大学の卒業生でありながら、仁泉会ニュースへ一度も投稿せずにこの世を去るのは、何となく残念に思いますので、私が在籍した大阪医科大学と島根医科大学の思い出を記述させて頂きます。

私が三田高校（兵庫県）を卒業した頃は、医師になるには、どこかの 4 年制大学教養課程で 2 年間に医学部受験に必要な単位を取得しなければなりませんでした。そこで、当時の西京大学（現京都府立大学）農学部に入学し、教養課程で医学部進学に必要な単位を取得して、2、3 の国公立大学医学部受験に臨みましたが失敗しましたので浪人するつもりでおりました処、3 月頃でしたか、大阪医科大学補欠若干名募集の新聞広告を見つけて受験、入学しました。

当時は、たとえ大学の医学部進学課程に在籍していても教養課程から医学部への進学には改めて試験がありましたから、医師になるには 2 度の大学入試が必要だったのです。また、当時の大阪医大には教養部がありませんでしたので、学 6 期のクラスメートは、京大、阪大、大阪市大などの有名大学で単位を取得して入学した多士済々の方が多くおられ、学友間の交流は大変楽しいものでした。

大阪医大での学生生活を振り返りますと、私は何故か、実験することが好きで、暇さえあれば上田巖夫教授（大阪高医 6 期卒）医化学（生化学）教室に入り浸りで、研究の手伝いなどをしていました。また、医化学教室では、月に何回かは、夕方からお寿司やお酒などを頂く機会がありましたので、そのような雰囲気に魅せられたことも事実です。

授業で忘れられないことは、椅子に座ってお茶を飲みながら講義をされるご高齢の教授がおられたことです。当時の大阪医大には停年制がありませんでしたから、無理からぬことだったのかも知れません。また、ウイスキーを片手に

講義をされる先生もおられ、これには些か驚きましたが、今では思い出の一つになりました。

学業は再試を何とか免れる程度にしか勉強しない不届き者でしたが、解剖の堀井非常勤講師（京大教授）、大阪医大神経精神科学の満田教授、そして内科学の原教授の名講義は大変興味深く、また眼科の牧内教授の外来実習では患者に寄り添う医療を学び、半世紀以上経過した今でも私の脳裏に印象深く残っています。

大阪医大卒業後、1 年間のインターンを経て、学生時代から出入りしていた医化学教室に研究生として入り、上田巖夫教授のご指導の下に研究を開始しました（当時、大阪医大には大学院はありませんでしたし、医化学は助手（助教）の席が空いておりませんでした）。医化学を選んだ理由は、医化学教室の雰囲気が好きだったことと、上田先生のお人柄に魅了されたことですが、更に付け加えるならば、学生時代、一番苦手だった医化学を少しでも理解できるようになれるかな？と思ったことと、兄弟姉妹で医師になったのは私だけだったため、いずれは三田の実家に帰って、祖父や父の後を継いで下山医院を存続しなければならない運命にあると思い、祖父や父が持っていたなかった医学博士の学位を取得しようと思っただけのことと、決して医化学という学問が得意とか好きだったことによるものではありません。実際、学位論文も含めて私の当時の業績は、全て大阪医科大学雑誌または国内の邦文学会誌ばかりで、恥ずかしい限りでした。

母校で学位を取得した時、父が、下山医院を必ずしも継承しなくて良いと独り言のように言ったので、これは有難いことだと思い、医化学を続けようか、それとも臨床に移ろうかと悩みました。しかし、前者は優れた能力が必要なので臨床へ移りたいと上田先生に申し出ましたが、米国留学を勧められましたので、それも面白いと思い、1 年半、外国での生化学の研究生生活を楽しみました。この留学のお陰で生化学の面白さが少しあは分かったような気がしました。これも偏に、ご指導頂いた恩師上田巖夫教授のお陰と感謝しています。

帰国後、医化学講師に就任してからは、自分

の考で研究することが出来ましたが、当時の医化学教室は設備がなく、研究に支障をきたすことが多くありました。例えば低温室や低温遠心機もない状態でしたが、上田先生のお計らいと科研費などで簡易の低温室などが設置され、何とか研究らしい研究を開始しました。

私は医化学の難しいが故に魅せられたのかどうかは分かりませんが、谷河精規君(学 15 期生)ほか何人かの優秀な後輩と一緒に夜の更けるのも忘れて研究に没頭する機会に恵まれ、研究結果を幾つかの国際誌に発表出来たのが、その後するすると医化学教室に居座る動機となりました。また、日本国内の生化学教室の国際雑誌への発表論文数がある雑誌に公表され、大阪医大医化学が上位にランクされたので、もう少し頑張ってみようかと思ったのかも知れません。

昭和 50 年の秋、幸運にも私と、谷河君(当時米国ロックフェラー研究所に留学中)が、昭和 51 年 4 月開校予定の国立島根医科大学(島根県出雲市、現島根大学医学部)生化学講座第一の教授と助教授(準教授)に当大学設置委員会からノミネートされ、島根医大開校の数ヶ月前から、教授就任予定者が何回か事務連絡会議に招集されました。学長就任予定者の深瀬政市先生が座長をされて、7 万坪の広大な敷地に講義棟、教養棟、基礎及び臨床研究棟、RI・実験動物棟、図書館や附属病院などが夫々、別個の建物として建設され、いずれの建物も廊下でつながる計画であると説明されました。そして、研究棟の何処を、どの教室が使用するかと云う問題や、共同利用機器センターの分析機器の選択と管理は誰がするか等の問い合わせがありました。私は真っ先に手を挙げて、同センター 3 階に分析機器が設置されるのであれば、機器の選定や機器の管理は生化学が一番詳しいので、生化学を研究棟 3 階にして頂きたいと申し出ました。別に反対する者が居なかつたので希望通りになり、要求した設備や機器の殆どが予算化され良い研究環境が整ったのは何よりの幸いでし。更に、RI・実験動物施設も各研究室から廊下でつながり、2 階に出入りがあって、悪天候の時などは、特に便利で、我ながら良い案だと思いました。事実、これらの施設が完成して

後に、他の新設医科大学から教官や事務官が見学に来られ、高い評価を受けました。

島根医大に赴任して最初に感じたことは、さすが一県一医大と銘打って計画された国立医科大学だけに、その広大な敷地、規模の大きさ、設備の良さは驚くばかりで、これは素晴らしい処へ赴任できたと思ったことです。因みに、その頃の日本の景気は最も良い時期だったことを後で知りました。

私にとって、もう一つ有難かったことは、以前、大阪医大で生理学の嘱託教授、後に非常勤講師(当時、京大教授)だった田村喜弘先生が島根医大初代の教育等担当副学長(専任)に就任されたことでした。田村先生も単身赴任だったため、休日の夕食などは同じレストランで同席する機会が多く、先生と親しくお話をさせて頂くうちに、何かと私に島根医大での活躍の場を与えて頂くようになりました。例えば、学内英文誌は絶対必要になるから、その原案を作れと云われ、Shimane Journal of Medical Science という雑誌名を提案し、その雑誌への投稿論文の校閲などに携わりました。心中では、そのような雑誌は不要ですと云いたかったのですが、田村先生は国際誌に受け付けられない論文がその内に出てくるから必要といわれました。残念ながら、学内には色々な教官がおられ、田村先生の云われる通りでした。驚いたことには、今でもそれが発刊されているのです。

私は大阪医大を卒業してから、国立大学に席を置いた経験がないままに島根医大へ赴任しましたので、私が知らなかっただけのことですが、幾つか驚いたことがあります。例えば、国立大学の管理経費は予算と支出が別々になっていきます。換言すれば、予算が不足すると、事務局長が霞ヶ関に陳情すれば何とかなると云った具合でした。又、課長、部長、事務局長らの事務職は約 3 年ごとに他の国立大学に移りますが、その決定は霞ヶ関(文科省など)で決まるのです。従って、誰もが地理的条件の良い大学への移動を希望しますから、あらゆる機会を利用して、霞ヶ関へご機嫌伺いに出向くことも不思議ではなく、また、霞ヶ関から地方大学への出張(視察)は、その夜の接待に繋がりますから、

国立大学は何かと外からは見えないことが多いのではと思いました。何時だったか忘れましたが、国立大学が加入している国立大学協会と文部省は、国立大学のあり方を研究するため、欧米諸国の大学の事務長クラスの方を呼んで、大学の管理運営についての勉強会を開催しました。驚いたことに、諸外国の国公立大学では、事務官の移動は全く無いことを知りました。

一方、国立大学の事務官や技官は、夫々国家公務員試験に合格した文部技官または文部事務官ですから、研究を援助して頂く上で大変助かりました。私の教室で採用した文部技官の女性は某国立大学薬学部卒ですから、薬学部卒と文部技官の資格(国家試験)取得を尊重し、貴女はお茶くみではないと明言して、教室員は私も含めて、毎日のお茶は自分で入れることにしましたし、研究室の清掃も教室員全員で行いました。

島根医大第一生化学教室の開設当初は、大阪医大や大阪大(歯)卒の、そして開設 6 年後には、島根医大卒の方々が助手(助教)や大学院生として活躍されました。私が主宰した島根医大第一生化学教室の発展は、これらの方々のご努力が基盤となったのです。歴史の浅いが故に、何かと不十分な環境で御尽力頂きました教室員の方に心より感謝申し上げます。

こう云えば、島根医大生化学は順風満帆のスタートを切ったように聞こえますが、実際は大変なことがありました。それは当時の新設国立医大は大講座制(この制度は当時の新設国立医大の目玉事項でした)を施行するので、2 教室からなる生化学講座は、教授 2 人、助教授 2 人、助手 3 人、文部技官または事務官 1 人と云う案が事務局に出来上がっておりました。助手 3 人、事務官 1 人では、どの様にして 2 教室へ平等に配分出来るのかと、説明者に問いましたら、1 年ごとに教室を変わったらどうですかと云う答えが返ってきました。全く研究を知らぬ人の案には閉口しました。それでは、教室の運営は出来ませんと猛反対しました結果、1 教室に 2 人の助手と 1 人の技官または事務官が配置されることになりました。

島根医大に赴任して、いつも念頭においたこ

とは、基礎教官の任務は先ず学生の教育であり、生化学を学生が面白いと感じてくれなければ、私は教官の資格がないと思った位です。しかし、大阪医大学生時代に教わった、今でも印象に残る何人かの有名な先生方に比べれば、私の教官としての点数は、甘く見積もっても何とか 60 点くらいだったでしょうか? これでは、学生に申し訳ないことだったと今でも思っています。

島根医大生化学では、学生が自習のために利用出来る勉強机を教室の片隅に準備したり、国際誌への投稿論文が出版公表のために受理する旨の通知を受け取った日には、これらの学生を入れて教室で飲み会を開催するなど、学生が気楽に教室に入りできるような雰囲気作りにも配慮しました。そして、週 3~4 回のランチョンセミナーには、前述の文部技官や興味を持つ学生も参加できるようにしました。私の研究室で採用した文部技官は、上述のように、ある国立大学薬学科卒の、しかも公務員試験に合格した方ですから、数年もすれば、研究内容を良く理解するようになりました。また、上記のランチョンセミナーの週 1 回は、教室員が各自の研究分野だけではなく、生化学全般の知識を得るために、ハーパー生化学の抄読会を行いました。

私が島根医大へ赴任した時は、教養課程は 2 年間と決められていましたが、学生は教養課程を高校の延長のように受取り、不勉強になって専門課程に進級しても、単位を落として留年する学生がかなり居りました。そのような学生を呼んで、教室の片隅に学生が自由に使える机を用意しました処、教員の精勤ぶりにつられて、研究室だったら勉強できると云いますから、どんな方法であれ、学生が自学自習できるように仕向けるのは良いことだと思います、そのような環境作りにも配慮しました。彼らは以後、単位を落とさなくなり、国家試験も首尾よく合格しますから、勉強のための環境は重要だと今でも思っています。また、学生時代から大変優秀で、卒後、臨床に進みましても、研究は生化学でやりたいと云う勤勉な大学院生も多く居ました。その中の 1 人は、現在テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンターの教員として活躍しています。時折、彼とインターネットで交信しています。

ていますが、彼を含めて親しくしていた学生が、夫々の分野で活躍していることは嬉しいことです。

もう一つ、特記すべきことは、大阪医大でも島根医大でも、私と運命を共にしてくれたと云うより、影になり日向になって、私を助けてくれた谷河助教授が島根医大の生化学第二の教授に就任したことです。これは偏に、彼の日頃の努力の結果に外なりません。谷河君が大阪医大で研究をしていた頃の週末は、車で朝日を背に受けて帰宅する（彼の居住地は神戸でしたので、高槻から帰宅する時は西へ向かいます）と良く云っていたことを思い出します。

他方、島根医大は新設であるが故に、歴史ある大学に追いつき追い越せを合言葉に教職員全員で努力しました結果、夫々の専門誌に掲載された科学論文数（研究者一人当たりの）は、日本の大学（医）の中で表の右に示されているように九州大学（医）に次いで島根医大が第 2 位になりました。これは、ある日本の研究者が我が国の科学論文数を調査し Nature に発表されたものです。表の左右の Shimane は島根医大の数値を示しています。業績の評価は研究内容で決まるものであり、決して論文数ではありませんが、新設医大の島根医大が、旧帝大と肩を並べることが出来たのは、教職員の日頃の努力が実った結果だと思います（＊は旧帝大）。

pers	Output of faculty		Output of faculty, res. assist. grad. stud.	
	Paper	Name	Per head (annual)	Name
244	*Kyushu	2.42	*Kyushu	0.94
233	*Osaka	1.95	Shimane	0.75
226	*Kyoto	1.89	*Tohoku	0.66
218	*Nagoya	1.67	*Osaka	0.55
172	*Tohoku	1.54	Gifu	0.55
138	Kumamoto	1.36	Gunma	0.53
130	Kobe	1.34	Shinshu	0.50
102	Shimane	1.33	*Kyoto	0.50
96	†Keio	1.31	*Nagoya	0.47
91	Gifu	1.19	Kyoto Prefectural	0.47
89	Shinshu	1.17	Niigata	0.46
84	Osaka City	1.16	†Keio	0.46
83	*Tokyo	1.14	Kumamoto	0.45
78	Kanazawa	1.06	*Tokyo	0.41
77	Kyoto Prefectural	1.04	Tokyo Med. & Dent.	0.40

話は前後しますが、島根医大が島根県出雲市に設置されることが決まってからは、県知事や出雲市長のお声がかりで、180 名もの出雲の地権者が、医科大学および附属病院や教官、事務官等の住居の敷地確保のために、先祖伝来の田畠を市が決めた価格で手放すなど、医大誘致の方策は、静かな出雲にとっては大変な出来事だったようです。そのような事情も知らずに、他府県の教官が大挙して医大宿舎に移り住んだものですから、後で聞いた話ですが、出雲の方々は、私共を外人部隊と呼んでいたそうです。

島根医大に移りましてから、長い間、大阪医科大学の評議員を務めさせて頂きましたが、母校の発展を思うばかりに、ついつい、評議会で辛口の発言をして、評議会の進行の邪魔者になってしまいました。また、島根医大でも、歴代学長の大学発展を妨げるような人事（学閥）に反対しましたので、私は当時の学長から嫌われていたようです。

だが、何故か私が学長から副学長に指名され戸惑いましたが、学閥解消に役立つならと思い、学長の要請をお受けしました（副学長は学長指名制でした）。その頃、島根医大に看護学科が新設されました。国立大学医学部では医学科と看護学科が併設されています。従って、共通の議題を討議する場合の教授会は、医学科と看護

学科の教授が同席し、文字通りリアルタイムで平等に討議が出来ます。最初、看護学科から医学科と同じ席での討議は看護学科に不利だと云わんばかりの発言がありました。座長の学長と座長補佐の副学長が、両学科の教授は平等であることを強調した結果、両学科が議題を共有でき、学科間の信頼も厚くなり、席を同じくしたことは大変良かったと思っています。勿論、医学科特有の議題や、大学院研究会議などは医学科

教授のみで行ったことは云うまでもありません。

話は変わりますが、島根医大在籍中は、他大学から来客がある度に日御碕や出雲大社を案内しました。日御碕の夕日を見て、ウミネコ（カモメの一種）の鳴き声を聞き、ビールを片手に、サザエの壺焼を食べながらの山陰海岸の散策は、来学された他大学の先生方を歓待する最良のコースでした。実際、日御碕の景色は、日頃の苦労が吹き飛んで心身ともにリフレッシュ出来る素晴らしいものでした。また、出雲大社は何と言っても日本最古の神社建築の様式を呈する「いずものおおやしろ」ですから、参拝するごとに、その本殿が国宝であること、大鳥居は日本一であることや出雲神話など多くのことを改めて学びました。

私は島根医大の開校と同時に教授として赴任し、副学長、学長を歴任して、島根医大が島根大学と合併する前日に、島根医大を辞して帰阪しました。従って、島根医大の勤務期間に限って云えば、島根医大と共に歩んできたことになります。また、私が教授就任時、医大ソフトテニス部の顧問をしていましたので、島根医大ソフトテニス部 OB が、下山の生きている間はと、年一回、大阪で OB 会を開催してくれています。

毎回喜んで出席していますが、そこでの立派な医師となっている島根医大卒業生との再会は、84 歳の私にとっては何よりの楽しみです。

先日、期せずして大阪医大名誉教授鏡山先生から大阪医科大学生化学教室関係者懇親会の案内を頂き出席しました。昔、上田巖夫先生の下で、同じ釜の飯を食った太田元治先生（学 4 期）、小橋紀之先生（学 20 期）や山本茂先生（学 23 期）とお会いできたのは望外の喜びでした。出席して先ず感じたことは私が育った時代とは全く異なる大変賑やかな雰囲気だったことです。これは、加齢により、私がそう感じたのであります。

島根医大在籍中、私は仁泉会島根県支部の先生方に色々お世話をしました。記してお礼を申し上げます。

長々と書いた私の拙文を読んで頂き有難うございました。最後になりましたが、大阪医大と仁泉会の益々の発展を祈念すると共に、私の好きなセネカの言葉を添えて稿を終えます。

ひねもす走りおおせたる者、やすき眠りにつくことよけれ（セネカ、古代ローマの哲人、紀元前 1 年～ 65 年）

（平成 28 年 10 月 1 日記）

編集部より

会費納入のお願い

年会費

平成 28 年度 10,000 円

平成 27 年度 10,000 円

平成 26 年度 10,000 円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

原稿募集のお知らせ

仁泉会ニュースの原稿を募集しております。日々の診療で感じられた事、研究報告、趣味のお話やクラス会や支部会のご報告なんでも結構です。

ご投稿お待ちしております。

●48 卷 2 号（平成 29 年 3 月 1 日発行）

締切 平成 29 年 1 月末日

●48 卷 3 号（平成 29 年 5 月 1 日発行）

締切 平成 29 年 3 月末日

●送付先：仁泉会事務局 〒569-8686 高槻市大学町 2-7

E-mail : jimu@jinsenkai.net FAX : 072-682-6636

気になるあの場所・あの人に 編集部がジャストミート！

大阪医大にもゆかりのある歴史ある神社

野見神社と高槻の歴史を感じる散策へ

高槻市野見町にある野見神社といえば、大阪医大の各施設の新築・改修の際、地鎮祭をお願いしている神社。身近な存在ではありますが、一体どんな神社で、どのくらいの歴史を持っているのか考えたことはありますか？そんな野見神社のことを福本章一郎宮司にお尋ねしてきました。



野見神社本殿

野見神社の創建

野見神社は、宇多天皇が在位した9世紀後半（887年～897年）、高槻周辺に悪病が流行した折、災厄・疫病を追い払う神様と言われた牛頭天皇をお祀りすれば悪病が治まるというご神託があり、社殿が建立されたと言われています。当時はまだ「野見神社」という名前ではなく「牛頭天社」と呼ばれていたようです。

野見神社宮司の福本章一郎さんが「あくまで想像ですが」と前置きし、史実になぞってお話してくれました。

「何故、牛頭天社であった当社に野見宿禰命がお祀りされるようになったか」というと、土師氏という、4世紀から6世紀にかけて古墳の造営や葬送儀礼に関わった氏族がいます。その祖が野見宿禰命であると言われています。相撲の神様としても有名ですが、それは古墳のような大きなものを作った人は大力の持ち主であろうと後世の人が考えたといわれています。その土師氏が高槻周辺にも住み、古墳や埴輪を作っていたのではないかと思います。そしてこの地に、自分たちの祖先である野見宿禰命をお祀りする神社を建てたのが始まりではないでしょうか」

この話を裏付ける史実があります。平安時代に編纂された「延喜式」の中に、高槻の神社の名が載っています。宮之川原の神服神社、清福時の阿久刀神社、そして上宮天満宮にあった野見神社です。

「高槻の天神さんに野見宿禰命がお祀りされていますが、その昔、菅原道真が太宰府に左遷される時に、天神さんの前で牛車が動かなくなってしまった。おかしいなと思ったら、ここにご先祖様が祀られていると知り（野見宿禰命は土師氏、道真の先祖）お参りしたそうです。当社で野見宿禰命をお祀りするようになった経緯は残念ながら私にもわかりませんが、古来からこの高槻には野見宿禰命への信仰が根付いていたのが理由の一つかもしれません」（福本宮司）

今もなお、上宮天満宮の御祭神には菅原道真的名の前に野見宿禰命の名があり、境内には野身神社が存在することからも、この話が事実に近いと想像されます。

神社苦難の時期

その後、享禄～天文時代（1528年～1555年）には「高槻城主江駿河守、和田伊賀守などの歴代高槻城城主や家臣の崇敬を集め、社領の寄進などがあった（野見神社パンフレットより）」という栄華を誇る時代があった後、高槻城主に高山右近を迎えます。その際、右近は神殿を破壊し、御神体は京都府八幡市の石清水八幡宮に避難させたとの説がありますが、福本宮司は首を傾げます。

「教育委員会が作った当時の想定図を見ると、野見神社がある部分に『教会堂推定地』と書かれているので確かなんだろうなとは思いますが、でも私には右近さんのような得の高い人が無下にそんなことをしたのかなと疑問に思う部分もあります」

ただ、野見神社にとって若干不幸だったのは、野見神社がお城の中にある神社だったことでした。

「お城の中にあるということは一般の方はお参りできない神社です。社格としてはかなり小さい。例えるなら家の中にある神棚といったところでしょうか。いざ戦ともなれば、戦火を逃れるのは難しかったはずです。右近さんのこととも含めて、かなり時代に翻弄された神社だったと言えるでしょう」

高槻に大きな影響を与えた永井家

石清水八幡宮に避難していた野見神社でしたが、元和5年に松平紀伊守によって、元の場所に新造されました。そして現在の高槻に大きな影響を与えた永井直清が高槻城主になると、さらに社殿を修築。臣下や村民とともに盛大な祭礼も行うようになっていきました。

直清の没後、野見神社の一角に直清を御祭神にした「永井神社」が建立され、以後 13 代にわたり、永井家と高槻、そして野見神社は良好な関係を築いていきました。福本宮司は言います。

「大きな本社（野見神社）があって、その境内にある摂社・末社は小さいことが普通なんです。しかし江戸時代に永井家を祀る神社を建立することになり、永井家のものであれば大きなものを作らないといけない。他にも当社には戎神社、小島神社、四社明神などがありますが、訳あってどれもが団体が大きいんです。その面では珍しい神社かもしれません」

こうして、野見神社は近代へと突入していきます。

そして現在の野見神社へ

明治に入り、神仏分離令が発令されると、牛頭天皇は須佐男之尊と名を変え、前述の野見宿禰命を合祀し、野見神社と改名します。しかし間もなく、再び苦難の時が訪れました。

「明治・大正から昭和の初期にかけて、神社の経済状況が大変厳しかったと聞きます。その間、宮司さんも度々変わったり、宮司を掛け持ちするようなこともあったそうです。その頃の資料はほとんどないのですが、昭和 9 年に神社がぼろぼろになって、何とか寄付を集めて整備しようと動いたという資料が残っています」

そして宮司が福本家になったのは、高度経済成長期の昭和 40 年代でした。

「祖父がもともと梶原にある畠山神社で宮司をしていたんです。すると野見神社の宮司が空席になっているから何とかしてほしいとのことで、祖父がここに来たのが始まりです。ちょうどそのころ宗教法人法が改定されて、宗教法人として成立させるために書類やらいろいろな事をキチンとしていこうということになった。そこでようやく今の姿になった感じですね」

もともと大阪医大のある場所は野見神社の氏

地でした。さらに 6 代目理事長の田中忠彌先生も野見神社の氏子だったこともあり、以来、新築の際の地鎮祭は野見神社に依頼しています。

さほど大きくはない敷地の中にぎゅっと詰まった歴史のロマン、そして古の高槻を感じることができる野見神社。先生方も何かの折には立ち寄ってみてはいかがでしょう。



野見神社宮司 福本章一郎さん



初代藩主永井直清を御祭神としてお祀りされている永井神社。高槻市の指定有形文化財にも指定。



左は大阪医大第六代理事長の田中忠彌先生の名が入った石碑。本殿には御神体の名が神々しく輝く。右は医大生御用達のセンター街「多津屋」の石碑。



高槻えびす神社社殿及び野見神社儀式社殿造営によるご寄付のお願い

一 趣意書

高槻えびす神社社殿ならびに野見神社能舞台は多くの崇敬者の真心により修復が重ねられ連綿と受け継がれてきました。この度老朽化が激しく時代に即した建物・設備に改めて整えることとなり御造営事業を計画いたしました。先人達の尊い歴史を受け継ぎ崇敬者のお心を結集し、大神の御光をいよいよ輝かず事業といたしたいと存じております。つきましては皆様には格別の御協力を仰ぎ、お力添えを賜り御奉賛くださいますよう、お願い申し上げます。

高槻えびす神社 講元 浜脇 昭 野見神社 福本章一郎

二 事業計画内容

高槻えびす神社建築 野見神社儀式殿建築 境内整備工事 その他関連工事

三 慕財要項 奉賛金 個人一口 五千円 団体一口 一万円（一口以上でお願いします）

四 御奉賛方法 (一) 社頭にてご奉賛は社務所にて毎日受付いたしております
(二) 振込は北おおさか信用金庫、郵便局にて受付しております

五 振込先

北おおさか信用金庫 高槻支店 普通 002503 高槻戎神社儀式殿建設委員会 浜脇昭

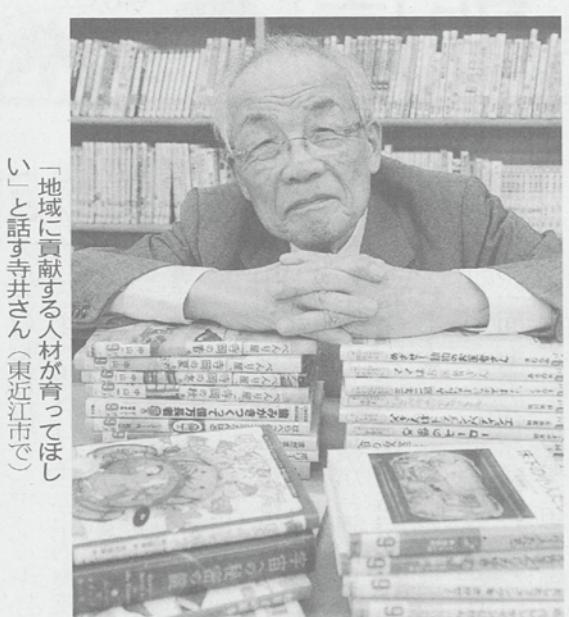
※北おおさか信用金庫間、振込手数料不要

郵便局 00900-1-331940 宗教法人 野見神社

御奉賛賜りました皆様のご芳名はご神前に報告し、永年保存させていただきます。

五十万円以上御奉賛頂きました方には寄付石を建立させていただきます。

新聞切抜



「地域に貢献する人材が育つてほしい」と話す寺井さん（東近江市で）

東近江市立能登川南小図書室の一角にある「寺井文庫」。南小の創立100周年に合わせて、2013年に設置された。親子2代、50年以上にわたって、毎年50冊～100冊の本を贈り続けている。

文庫を前に「子どもたちにたくさん本を読んでほしい。友達同士で競い合って読んで、知的好奇心を大いに刺激してくればうれしい」と目を細める。

江戸時代から続く医者の家の5代目。祖父の時代から南小の学校医を務めてきた。本の寄贈は父が1962年に始めた。66年後に引き継いだ。

南小は母校ではない。幼・少年期は親の仕事の関係で、大阪で過ごした。しかし、父は南小の前身、五峯尋常小学校の第1期生で、妹や自分の子ども、孫も同校で学んだ。

東近江市出身。大阪医大卒。長年、能登川南小と能登川第一幼稚園の学校医を務めたことにより、2014年に瑞宝双光章を受章。今月3日には、市から「子どもたちの読書環境の充実に寄与した」として、市政功労者表彰（社会功労感謝状）を授与されている。学校での健診時、子どもたちに「命」や「礼儀」の大切さなどを説いている。

「今でもその時の感激は忘れられない。この体験で『村の医者』として地域に貢献したいとの思いを強くした」と振り返る。その思

近江人と図書室から人材育つて

小学校へ本寄贈半世紀
産婦人科医

寺井晉さん 84

父の小学生に対する思いは強く、地域の人々が協力してつくった『おらが村の学校』を誇りとしていた。今、本を贈り続けているのは、父が愛し、自分の子どもたちがお世話になった学校のためだけに立ちたかったからだ。

県立彦根東高では新聞部に所属し、学校新聞作りに熱中した。「戦後間もない頃で活字に飢えていた」という。経験から「耳で聞いたことは忘れるが、本を読んで学んだことは忘れない」と、強調する。

進学や就職などで地元を離れる若者も少なくない。「『おらが村の学校』の卒業生が各地で活躍するのはうれしいが、一方で、地元に残った人たちを大切にしたい」とも思う。

「そんな地域を支える人材が小学校の図書館からどんどん育つてほしい」。それが「村の医者」の願いだ。（小宮宏祐）

★★★2016年11月7日付け讀賣新聞に掲載されました寺井晉先生（学7期）の記事を、先生のお手紙（右ページ）とともにご紹介いたします。★★★

十一月吉日 寺井晉 族員

秋冷の候、おまちりございませんが、太伺い申上ります。私こそ東近江市域内では一番年専り用業医になりました。

此秋、3日、南小に図書の寄附していただきという事で市より市政功労者として感謝状を戴きました。謹重新庫の取扱を受り、「近江と人」とに掲載されました。小学校時代、エジソンに心酔した頃や、新庫都で活躍していた想い出までふれ、少し照れます。少年時代に想い出までふれ、少し樂しませていただきました。コピーを同封します。

若ぶりに頃に思いをめぐらしていただければ幸いです。あと二ヶ月足らずで、皆が歳を迎えます。末筆ながら、御健勝を祈念申し上げます。

拝啓

此秋、3日、南小に図書の寄附していただきという事で市より市政功労者として感謝状を戴きました。謹重新庫の取扱を受り、「近江と人」とに掲載されました。小学校時代、エジソンに心酔した頃や、新庫都で活躍していた想い出までふれ、少し照れます。少年時代に想い出までふれ、少し樂しませていただきました。コピーを同封します。

若ぶりに頃に思いをめぐらしていただければ幸いです。あと二ヶ月足らずで、皆が歳を迎えます。末筆ながら、御健勝を祈念申し上げます。

会員著書

読む本 食べ物で健康になりたい人が

藤田きみゑ著
宮武明彦監修

創元社

新刊本のご紹介

文責／安藤嗣彦（学20期）

私の同級生（学20期）の藤田きみゑさんが、昨年の10月に「食べ物で健康になりたい人が読む本」という題名で、一般人を対象にした単行本を創元社より発刊しましたのでご紹介いたします。彼女は、過去にも、学19期の宮武明彦先生との共著で「ぜんそくがよくならない人が読む本」を発刊され、私に贈呈していただきました。両先生は現在も喘息専門の診療所を経営するのみならず、NPOとして喘息の啓蒙にも日々活躍されています。藤田先生は、若い頃より病弱が故、寿命は70歳くらいまでかと思った時期もあったようです。その病魔と闘う過程で、現代医学のみならず、さまざまな東洋医学や、日本古来の健康に良い食品の使用経験を基に、学問的、文献的考察を加え解りやすく執筆されたものです。巷の、健康食品やサプリメント礼賛とは一線を画す一冊で、一読をお勧めします。

「食べ物で健康になりたい人が読む本」

藤田きみゑ（学20期）著
出版社／創元社
価格／¥1,200+税

会員著書



「一期一会 伊達の警察医日記」

板野 聰（学28期）／著
出版社／文芸社
価格／¥600+税

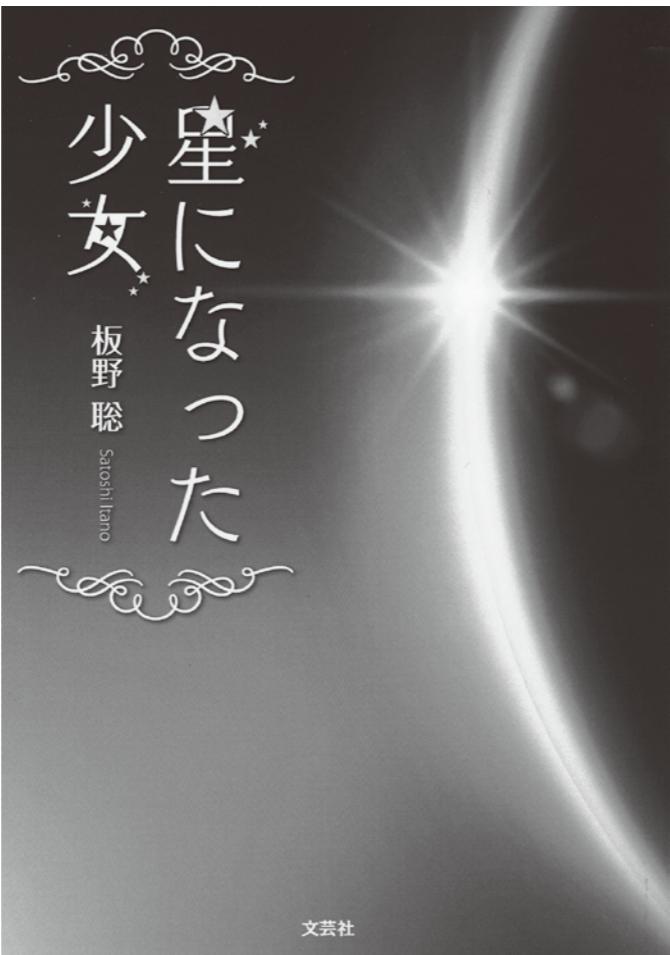
三重県名張市にあります寺田病院に勤務する外科医です。専門は消化器外科ですが、消化器内視鏡も含めた「消化器医」として勤務しております。

この度、2冊の短編小説集を上梓する運びとなりました。

1冊は10年前に上梓したもので、医療や介護を中心に患者さんやご家族、我々医療人の苦悩や喜びを中心的に、もう1冊は三重県警察から嘱託を受けている警察医としての検死業務を基に書き起こしたもので、すべて私の実体験をベースとしたものです。

拙著ではありますが、ご一読いただければ幸いです。

学28期 板野 聰



「星になつた少女」

板野 聰（学28期）／著
出版社／文芸社
価格／¥600+税

この度、2冊の短編小説集を上梓する運びとなりました。

1冊は10年前に上梓したもので、医療や介護を中心に患者さんやご家族、我々医療人の苦悩や喜びを中心的に、もう1冊は三重県警察から嘱託を受けている警察医としての検死業務を基に書き起こしたもので、すべて私の実体験をベースとしたものです。

拙著ではありますが、ご一読いただければ幸いです。

新聞切抜

★★★
★★★
★★★
長寿の作法

神戸市立医療センター中央市民病院腎臓内科部長
吉本明弘さん



高尿酸血症は、尿酸値が高い状態を指します。その症状として最も有名なのは、痛風発作でしょう。本来、血液中に溶けているはずの尿酸が結晶となり、関節に沈着することで、あるとき強烈な痛みを起します。

けれども「痛風が怖い」だけの病気ではありません。結晶が腎臓に沈着すれば、腎臓の働きが悪くなり、人工透析が必要になる場合があります。また最近では、尿酸値が高いことで、動脈硬化が進行し、脳卒中や心筋梗塞の直接の引き金になることが報告されています。

尿酸のもととなるのは「プリン体」というレバーや魚の干物、お酒に多く含まれる物質です。「プリン体カット」というお酒も見かけますが、アルコール 자체が尿酸値を高めることは覚えておいてください。魚卵や肉にも多く、かつて痛風が「せいたく病」「帝王病」と呼ばれていたのも一つの理由です。

砂糖の多い清涼飲料水が落とし穴になることも。「お酒を断ったのに尿酸値が下がらない」と訴える患者さんに話を聞くと、代わりに炭酸飲料を飲み、尿酸値に影響していることがあります。尿酸値を上げるので、ウォーキングなどの有酸素運動をお勧めします。

尿酸値を十分に取ることも挙げられます。激しい運動はむしろ尿酸値を上げるので、ウォーキングなどの有酸素運動をお勧めします。もし血液検査で尿酸値が基準を超えた��も、まずは薬より食事や生活習慣を見直しましょう。

よしもと・あきひろ 1969年大阪市出身。95年大阪医科大卒。倉敷中央病院、京都大病院などを経て、2003年から神戸市立医療センター中央市民病院へ。15年に腎臓内科部長。芦屋市在住。

高尿酸血症

尿酸値が高い状態が長期化すると、尿酸が結晶となり、尿管結石、痛風結節（体にできるぶぶ）などを起こす。患者は500万人以上と推定され、脂質異常症や高血圧、肥満などの生活習慣病を併せ持つ人も多いとされる。

吉本さんが勧める
三つの作法

- 一、尿酸値を抑え、痛風だけでなく脳卒中も予防
- 二、お酒は減らし、野菜や海藻類を多く食べる
- 三、激しい運動より、歩行などの有酸素運動を

★★★
★★★
★★★
2016年11月28日付け神戸新聞に掲載されました吉本明弘先生（学44期）の記事をご紹介いたします。
★★★
★★★



エッセイ

歴史を彩った女性達（3）

西村 保（学 4 期）

巴御前は木曾の豪族であった中原兼遠の娘で、長じて木曾義仲の愛妾となった。御前とは敬意や親愛を表す接尾語である。木曾義仲は源為義の孫で源氏が平氏に討たれてから密かに木曾の山中で育てられた。そして 1180 年、源頼朝の挙兵に応じて挙兵し、俱利伽羅峠で平氏の軍勢を打ち破って真っ先に京に入り、一時は旭將軍と称された。

巴御前は生来剛力で大弓の名手でもあり、荒馬も巧みに乗りこなす武勇に秀でた女性であった。それでいて色白で容姿端麗だったので義仲が惚れ込んだのである。巴御前も義仲に従つて京に入ったが口うるさい京の人々も巴御前の美貌に驚いたと云われている。しかし義仲は頼朝に無断で征夷大将軍となったのを咎められ、頼朝の命を受けた源範頼、義経に京を追われ、近江粟津で討ち死にした。巴御前は最後まで義仲に従つたが、その際、すぐ近くまで追ってきた当時、怪力無双と称されていた恩田八郎師重を見事に討ち取ったと云われている。その武勇と美貌を惜しんだ義仲に説得され、本来の女性姿になって姿を消した。

その後、故郷に帰った巴御前は頼朝の命で鎌倉に召喚された。しかし巴御前の頼朝に対する不遜な態度に怒った頼朝は首を刎ねるように命じたが和田義盛に説得されて断念した。義盛も巴御前の武勇と美貌に惚れ込んだのである。これに感謝した巴御前は義盛の妻となり、一人の男子を生んだ。これが朝比奈三郎義秀である。

こうして、ようやく落ち着いた生活が出来るようになったが、それから間もなく和田一族が北条氏の謀略にかかる合戦に巻き込まれて義

盛も義秀も討ち死にし、和田一族も滅ぼされてしまった。この苛酷な運命に悲嘆にくれた巴御前は再び故郷の越中に帰り、その後は尼となつて、義仲、義盛、義秀の菩提を弔いながら静かに暮らしたと伝えられている。

静御前はもともと京の白拍子であったが源義経の愛妾となった。正に相思相愛であった。白拍子とは平安末期から鎌倉時代にかけて存在した一種の巫女のようなもので、神仏や貴人の前で歌い舞う舞姫のことである。姿は直垂（ヒタタレ）に立烏帽子（タテエボシ）で、白鞘巻の刀を差した男装で、鼓や笛の伴奏が用いられた。

義経は頼朝の命を受けて平氏を壇ノ浦で滅亡させ、次いで義仲を討ち取ったが後白河法皇の策謀で頼朝の怒りを招いて、逆に討たれる身となつた。義経は静御前を伴つて西国に行こうとして難波の浦から船出したが嵐に吹き返され、止む無く吉野山に逃げた。ここで義経は先々の事に思いを馳せ、静御前を母の居る京に戻す事にした。彼女は泣く泣く義経の決断に従つた。

こうして京に戻つた静御前は京の守護職であった北条時政に捕えられて鎌倉に送られ、頼朝に義経の居所を尋問されたが、知らない、存じませんと答えるのみであった。そんな時、鶴岡八幡菩薩の法要があり、菩薩への供えとして舞の名手であった静御前に頼朝と正妻政子や数多の陪臣の前で舞う事を命じられた。彼女は艶やかな白拍子姿で「しづやしづしづのおだまき 繰り返し昔を今になすよしもがな…」続いて「吉野山峰の白雪踏み分けて入りにし人の跡ぞ恋しき…」と義経に対する慕情を嫋嫋と謡い踊つたのである。万座の陪臣たちは色を失つた。果たして頼朝は激怒して首を刎ねるように命じたが、妻の政子は静御前の女心を哀れと思い許しを乞うたので頼朝も怒りを鎮めたのである。そして褒美まで与えて京に帰す事にしたが、この時彼女は義経の子供を身籠っていた。それで子供が生まれるまで鎌倉に滞在する事を命じられた。そして生まれた子が女子ならば許すが男子なら殺すと宣言された。そして生まれたのは男子だったので由比ヶ浜の海に沈められてしまつた。

こうして、ようやく落ち着いた生活が出来るようになったが、それから間もなく和田一族が北条氏の謀略にかかる合戦に巻き込まれて義

た。

こうして最愛の夫と我が子を失つた失意の静御前は、悄然と京に戻り、尼になって義経や生まれたばかりの我が子の菩提を弔つて余生を送つたとも義経を慕つて奥州一帯を彷徨つたとも云われているが定かでない。

このように巴御前、静御前は共に女として純愛を貫いた一生であった。

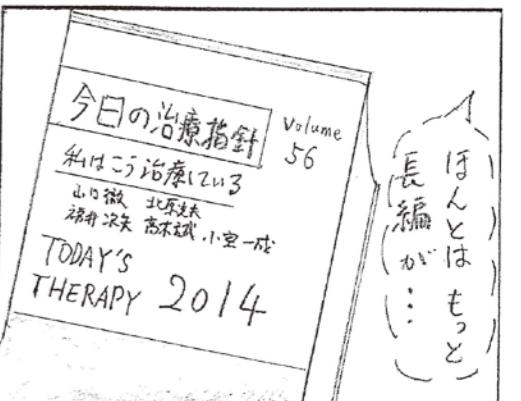
それにしても異母弟で平氏滅亡に大功のあった義経を頼朝は何故忌避したのかは定かではないが、大きな原因として後白河法皇の策謀があったとされている。頼朝は、かねてより武家の棟梁として征夷大将軍の官位を欲しがつていたが、法皇はそれを知りながら義仲や義経に征夷大将軍の官位を与えて新興勢力としての源氏の分断を図つたとされている。しかし頼朝は後白河法皇より更に老齢であった。後白河法皇の策謀を利用して、自分より声名の高かった義経を討つて独裁政権としての鎌倉幕府を創建した。以後明治になるまで数百年間武家が政治を支配したのである。



まんが

パラパラ漫画

ポン太ール（学 31 期）



リレーエッセイ

新しい家族

山口和男（学 44 期）



前号、古林圭一先生（学 49 期）からご指名を受けました、学 44 期の山口和男です。古林先生とはバスケットボール部の先輩、後輩の関係で（もちろん私が先輩ですが）、学生時代から彼は鮮やかなプレイでシュートを決めていましたが、今回は彼から不意を突いたパスが送られ受けてしまった次第です。私は平成 7 年に整形外科に入局、平成 19 年からは済生会茨木病院に勤務、平成 26 年 4 月に生まれ育った茨木市でやまぐち整形外科・リウマチクリニックを開業、まもなく 4 年目を迎えようとしているところです。普段は茨木医師会や大学、関連病院の先生方には整形外科のみならず、科を越えて大変お世話になっており、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

さて、我が家では以前から妻や娘たちが犬を飼いたいとずっとと言っていました。犬や猫を飼っている先輩や友人からはペットに癒されているという話もよく耳にしますし、生き物を飼うことは子供の教育にとっても良いことだと思うのですが、私にはひとつ不安がありました。それは私に犬アレルギーがあるかもしれないという事です。昔実家で犬を飼っていたことがあります、その頃は全く問題なかったのですが、いつ頃からか犬と接すると目の痒みや、くしゃみ、鼻汁ができるようになりました。はっきりしたのは妻の実家に行ったときです。当時、妻の実家では 2 匹の犬を飼っており、そこでイヌと戯れると症状が出るようになりました。決して妻に実家に対するアレルギーではないので誤解さ

れないように。しかし家族の犬を飼いたい熱はどんどんヒートアップし、ネットでブリーダーのサイトを見てはこの仔がかわいい、あの仔がかわいいなどと毎日のように盛り上がってきました。とうとう娘たちに「アレルギーが出るかをちゃんと調べて」と言われ、後には引けなくなり採血を行いました。で、その結果、スギ、ヒノキ、ハウスダストなどはすべて陰性でしたが、イヌだけが陽性になってしまったのです。今更諦めろとは言えず、というか諦めるつもりもないようで、皮膚科の同級生に相談したところ「抗アレルギー剤を服用しながら接すれば」とのすばらしい？アドバイスをいただき、結局 GO サインを出していました。

しばらくして雌のミニチュアダックスが我が家に来ました。何匹かの候補から上の娘が一番気に入った仔犬を選び、下の娘が自分の名前の一部を取り「こはる」と名付けました。こはるが我が家に来て約 3 か月が経ちました。娘たちは妹ができたかのように本当に可愛がっており、妻もこはるといふと癒されているようです（娘たちと違い何も文句も言わないから？）。私もたまに抗アレルギー剤のお世話になりますが、幸い今のところ大きなアレルギーは出ることはなく、また私にもよくなつてくれています。これからも家族 5 人？ 仲良く過ごていきたいと思います。

最後に次号ですが、整形外科の先輩である社会医療法人三和会永山病院の成山雅昭先生（学 37 期）にお願いしております。

編集後記

明けましておめでとうございます。仁泉会諸兄姉には、どのような新年をお迎えでしょうか。今回の仁泉会ニュースには大学理事長、学長先生をはじめ、各支部長先生よりの新春便りを多数掲載いたしました。それぞれにご自身の思いや支部現況報告など盛りだくさんになりました。ご寄稿くださいました先生方には御礼申し上げます。

さて、昨年は熊本・大分地震、北日本の水害など自然災害が多くありました。福島原発問題

など、東日本大震災よりの復旧もまだまだの感があります。自然災害は防ぎようのないものですが、せめて減災を図ることが大切です。くれぐれもお気をつけください。

今年は酉年。日本列島だけではなく、世界中があまりバタバタせず、平穏な一年になることを祈っております。（治）

仁泉会事務局メールアドレスについて

この度、事務局のネットワーク整備に伴い、2つあったメールアドレスの内、jinsenkai@etude.ocn.ne.jp は平成 27 年 11 月末日をもって廃止となりました。今後は jimu@jinsenkai.net のみとなりますのでよろしくお願い致します。

廃止：jinsenkai@etude.ocn.ne.jp

現行：jimu@jinsenkai.net



地元で 50 年

薬袋・診察券・カルテなどの
医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻
tel: 072-761-8434

ハードルをジャンプ！！